



AKITA UNIVERSITY

平成18年度 2006

AKITA UNIVERSITY

GENERAL INFORMATION BULLETIN 2006

秋田大学概要



目次

	ページ
学長あいさつ	1
基本理念・基本的目標・教育目標	2
中期目標・中期計画	3
21世紀COEプログラム	5
特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)	6
大学・大学院における教員養成推進プログラム(教員養成GP)	7
沿革	8
運営組織	10
教育研究組織	11
事務組織	12
役職員	13
教育文化学部・教育学研究科・特殊教育特別専攻科	14
医学部・医学研究科	16
工学資源学部・工学資源学研究科	18
医学部附属病院	20
附属図書館	22
教育文化学部附属学校園	23
学部附属教育研究施設	24
鉱業博物館	26
就職支援活動	27
センター及び機構	28
学内共同教育研究施設等	30
福利厚生施設等	32
体育施設等	33
東京サテライト	34
工学資源学部通信教育講座	35
平成18年度大学開放事業	36
平成18年度主な課外行事	37
手形地区施設配置図	38
本道地区施設配置図	40
保戸野地区施設配置図	41
位置図及び所在地	42
入学志願者・入学状況	44
学生の定員・現員	45
出身高校所在地別在学生分布図	48
卒業者数・修了者数	49
卒業者等就職状況	50
学位授与数/日本学生支援機構奨学生	51
平成17年度学生表彰受賞者	52
外国人留学生数	53
国際交流協定校・外国人研究員・非常勤研究員・外国人客員研究員	54
平成18年度公開講座	55
役員数	56
教職員数	56
平成18年度予算	57
外部資金受入状況	58
平成18年度科学研究費補助金採択状況	59
刊行物等一覧	59
土地・建物	60

学 年 歴

学 年

前 期 …………… 4月1日～9月30日

後 期 …………… 10月1日～3月31日

式(平成18年度)

入学式 …………… 4月6日

卒業式 …………… 3月22日

休 業(平成18年度)

春季休業 …………… 2月23日～4月4日

夏季休業 …………… 8月5日～9月30日

冬季休業 …………… 12月26日～1月8日

学章

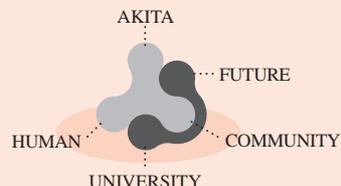


秋田大学の学章については、昭和24年9月16日に秋田大学開学記念として、懸賞募集の結果、臨時評議会において1等当選となった図案である。3枚の秋田路の葉に、大学の文字を配したもので、当時の鉱山学部教官中村譲氏の考案になる。その後秋田大学のシンボルマークとして使用されてきたが、平成16年4月1日学章として定められ、同時に校旗の制式も定められた。

ロゴマーク



AKITA UNIVERSITY



それぞれの円には、上の5つの意味を込めている。また、オレンジの形の3頂点は秋田大学の3学部の存在を表している。



オレンジの形にはAkitaの“A”を、ブルーの形にはUniversityの“U”のイメージを持たせている。

国立大学法人秋田大学の発展を目指して



国立大学法人秋田大学長 三浦 亮

秋田大学は平成16年度を期して、国立大学法人として新たな門出を迎えました。しかし、予算の大半が国からの運営費交付金すなわち国民の税金と、学生納付金によることは変わりがなく、常に国民・社会への奉仕、貢献を念頭に置き、学習者中心の教育を行うことは基本的に変わりません。

本学はこれまでも国際的なレベルの人材の育成、研究の遂行、そして地域社会を含む社会貢献を果たして参りました。すでに平成14年度に始まった「優れた研究・教育拠点 COE:Center of Excellence」で「生命科学分野」が、平成15年度に始まった「特色ある大学教育支援プログラム GP:Good Practice」で「三学

部連携による地域・臨床型リーダー養成」がそれぞれ初年度から採択されており、法人化後の平成17年度には「教育・研究リーダーの学校臨床型養成」が教員養成GPとして新たに採択され、伝統ある実績に支えられた本学の現在の実力と将来への構想力が優れていることを示してきました。

法人化に際して秋田大学が示した基本理念、6年間の中期計画は本冊子中でさらに説明を加えており、着実に成果をあげて進行中です。

国民の支持・支援によって成り立っている秋田大学が、全国から集まった学生の皆さんの期待に応え得る大学として、さらに発展するために全力を尽くします。

歴代学長

氏名	任期	氏名	任期	氏名	任期
劔木 亨 弘*	昭24. 5.31 ~昭24. 7.30	伊藤 泰 一	昭41. 3. 1 ~昭44. 6. 9	渡部 美 種	昭61. 2.23 ~平 3. 2.22
池田 謙 三*	昭24. 7.31 ~昭25. 5. 5	藤島 主 殿*	昭44. 6.10 ~昭46. 2.22	新野 直 吉	平 3. 2.23 ~平 8. 2.22
佐野 秀之助	昭25. 5. 6 ~昭30.12.24	渡邊 武 男	昭46. 2.23 ~昭51. 2.22	徳田 弘	平 8. 2.23 ~平13. 2.22
五十嵐 勇*	昭30.12.25 ~昭31. 2.29	九嶋 勝 司	昭51. 2.23 ~昭56. 2.22	三浦 亮	平13. 2.23 ~
渡邊 萬次郎	昭31. 3. 1 ~昭41. 2.28	梅津 良 之	昭56. 2.23 ~昭61. 2.22		

*は 事務取扱を表す。

基本理念・基本的目標・教育目標

The Missoin, Goal, and Educational Objective

秋田大学は、下記の基本理念を定め、それを達成するための5つの基本的目標をもって、活動を推進します。また、特に養成する人材像を教育目標として定め、教育にあたります。

基本理念

1. 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

基本的目標

1. 「学習者」中心の大学教育を行い、幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備えた人材を養成します。
2. 基礎から応用までの研究、特に「環境」と「共生」を課題とした独創的な研究活動を行います。
3. 地域と共に発展し、地域と共に歩む「地域との共生」を目指します。
4. 国際的な教育・研究拠点の形成を目指し、地球規模の課題の解決に貢献します。
5. 学長のリーダーシップの下、柔軟で有機的な運営体制を構築します。

教育目標

（学部）

1. 社会の変化に柔軟に適応できる幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備え、社会の発展に貢献できる人材を養成します。
2. 地域の文化的・経済的発展に貢献できる人材を養成します。
3. 国際人として通用するコミュニケーション能力・異文化理解力を備えた人材を養成します。

（大学院）

1. 国際人として通用する、高度な専門性・独創性と倫理性を備えた人材を養成します。
2. 専門性の高い研究能力を備え、指導者になりうる人材を養成します。

秋田大学は法人化にいかに対応していくか ：中期目標・中期計画に基づく発展の方策

中期目標・中期計画とは、全国の国立大学それぞれが法人化後6年間で行う取り組みを自主的にまとめたもので、大学は、これを確実に実施することによって、本来の使命を果たすとともに、法人化後の競争的資源配分方式のもとで健全な運営ができる強力な体質をつくることができます。この中期目標・中期計画を着実に実施するためには、6年間の各年度ごとに具体的達成目標をたて(これを「年度計画」といいます。)、その達成度を自己評価しながら各事業を進める必要があります。

本学では、中期目標・中期計画が大学の将来を左右するものにとらえ、その実現に向けて鋭意取り組んでおり、その具体的内容は次のようになります。

本学の基本理念・中期目標・中期計画

本学では次の3点を基本理念とし、その基盤の上に中期目標・中期計画を設定しました。

- (1) 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
- (2) 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
- (3) 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

基本的目標としては次の5項目を設定しました。

- (1) 学習者中心の大学教育を行い、幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備えた人材を育成します。
- (2) 基礎から応用までの研究、特に「環境」と「共生」を課題とした独創的な研究活動を行います。
- (3) 地域と共に発展し地域と共に歩む「地域との共生」を目指します。
- (4) 国際的な教育・研究拠点の形成を目指し、地球規模の課題の解決に貢献します。
- (5) 学長のリーダーシップの下、柔軟で有機的な運営体制を構築します。

中期計画はこの5つの基本的目標を実現する191項目の具体的措置からなっており、更に中期計画の内容に基づき、平成18年度において実施すべき事項を記載した年度計画を作成しております。

以下、中期計画中の教育、研究、社会貢献、国際交流に関する方策について述べます。

1 教育に関する発展方策

本学独自の知的付加価値を追求した学生教育

学習者中心の大学教育を行い、幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度な倫理性を備えた、社会の発展に貢献できる人材を育成します。

そのため「教育推進総合センター」並びに「学生支援総合センター」を設置し、目標を実現するため教育システムを全学の教職員が協力して推進します。

高等教育における教育方法開発計画の重点化

本学の全教職員が参加する宿泊型のFDワークショップ等を開催し、本学の教育的使命のより具体的な基盤環境づくりに取り組みます。

2 研究に関する発展方策

「一定の基盤研究費の保証」と「基本的目標に沿った独自性の高い研究プロジェクト」の形成
人文科学、基礎分野のように直ちに成果を期待できないが重要な学問分野、独自性の高いもの及び萌芽性のある一般研究等を興隆させると同時に本学の基本的目標に沿った独自性の高い研究プロジェクトを推進します。

先端分野の教育・研究の積極的な推進

バイオサイエンスとレアメタルに関する2つの国際的な教育・研究拠点的形成するため、「バイオサイエンス教育・研究センター」及び「ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー」の拡充・整備に努めます。

3 社会貢献に関する発展方策

産学官及び地域連携の推進

産業・医療・教育という観点から「産学官連携・地域との共生」の本学の拠点として「地域共同研究センター」を拡充・整備します。

「社会貢献推進機構」を中心に人的・物的資源を総動員し、社会・地域・世界への貢献を推進し、地域との共生を図ります。

附属病院の充実

教育と研究の視座に医療を加えて、安全性や快適性の向上を目指した附属病院の再開発を推進し、最先端医療を提供すると同時に附属病院の経営の安定化を目指します。

4 国際交流に関する発展方策

留学生受入の拡大と本学学生の海外留学推進

本学への留学生受入を拡大するために「国際交流推進機構」を中心に、国際広報活動の活性化、国際的な教育研究の推進と支援を行います。また、学部留学生、大学院留学生や海外からの研究者が学習と研究に専念できる環境を整えます。一方、本学学生が海外で学習する機会を多くするための支援を行います。

中期目標・中期計画を達成するために

教育・研究・社会貢献・国際交流等の評価に関する「評価センター」の設置

一定の基準で自らを評価する機能を持つことが大学にとって不可欠であり、そのために「評価センター」を設置しました。その評価結果は、基本理念・中期目標を達成するための諸施策が効果的に機能しているかどうかを判断する役割、つまり効果的な諸施策となっているかどうかの検出機能の役割を果たすことが期待されます。これを活用することにより基本理念・中期目標を効果的に実現します。

21世紀COEプログラム

The 21st Century COE Program

「21世紀COE(センター・オブ・エクセレンス)プログラム」とは、文部科学省が打ち出した「大学の構造改革」の一環として、世界最高水準の研究教育拠点になる可能性が十分あると考えられる大学に、大学院博士課程レベルで予算を重点的に配分する制度です。



COEプログラムコアメンバーの下で研究するCOEポストドク



COEプログラムによりバイオサイエンス教育・研究センターに設置された超高速セルソーター



バイオサイエンス教育・研究センターで、ポストドク等を率いて独立した研究プロジェクトを進めるCOE主任研究員

21世紀COEプログラムがはじまった平成14年度には、生命科学など5分野で全国の国公私立163大学464件の申請があり、同省から委託された日本学術振興会が運営する「21世紀COEプログラム委員会(江崎玲於奈委員長)で審査の後、50大学113件が選考され、本学大学院医学研究科からも生命科学分野に申請した「細胞の運命決定制御(拠点リーダー:鈴木聡教授(平成16年度までは稲垣暢也教授))が選ばれました。

鈴木教授をリーダーとしたこの研究は、細胞の増殖、機能分化、再生、死など運命決定に関わるメカニズムを生理学的、分子生物学的、細胞生物学的手法などを用いて明らかにするもので、研究成果は、糖尿病や、がん、アレルギーなど細胞の異常によって引き起こされる疾患の解明、治療、臓器再生など、さまざまな点で医療に役立つことが期待されています。

本プログラムでは、研究プロジェクトである「細胞の運命決定制御」を明らかにすべく全力を尽くすことは言うまでもありませんが、その他にも大学院生や若手の研究者を育成し、秋田大学において世界に誇れる研究教育拠点を形成することを目標としています。そのためには質の高い研究教育指導を行うと同時に、優秀な独立主任研究員、ポストドク(博士課程修了)、大学院生などの若手研究者を国内外から広く募集し、経済的な支援を含めた研究しやすい環境づくりに取り組んでいます。

21世紀COEプログラムがはじまってからは、国際的に権威のある科学雑誌である「ネイチャー」や「セル」などの多くの著名な雑誌に研究成果が掲載されており、平成16年9月には、日本学術振興会の仲介により、ケンブリッジ大学、熊本大学21世紀COEプログラムと共に、合同シンポジウムをケンブリッジ大学で開催し、研究成果を発表しております。さらに同年、本学を含め50大学113件の研究プログラムを対象とした中間評価が公表されました。秋田大学は、「地方にありながら、細胞生物学における世界水準の研究拠点形成が進んでいると評価される。また、公募プロジェクト型主任研究員の採用とそれに対する大学挙げての研究支援体制の整備など、世界をリードする人材育成の面でも大いに期待される拠点である。さらに本拠点を核とした産学連携による疾患治療法の開発など、応用面でも期待される。」とのコメントをいただき、最上位のA評価を受けました。

また、平成17年7月には、これら生命科学の研究を広く知ってもらい、高校生のバイオサイエンスに関する興味・関心を高めてもらうことを目的とした「高校生のためのバイオサイエンス教室」を開催しました。最先端の研究活動を紹介した本教室には、県内外の多数の高校生が参加をし、テレビや新聞等でも報道されました。

このような素晴らしい研究成果をあげる一方で、積極的に産官学連携研究を推し進めており、ベンチャー企業の立ち上げや共同研究、役員としての企業参画などを果たしております。

本プログラムは平成18年度で終了となりますが、プロジェクトは目的どおり進行しており、秋田大学が世界最高水準の研究教育拠点になるよう、今後への期待が一層高まっています。

特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)

Good Practice Program

GPプログラムとは？

文部科学省は平成15年度から「特色ある大学教育支援プログラム」と名づけた公募事業を開始しました。Good Practiceの略で「特色GP」ともいい、教育面での優れた取組を選定し高等教育の改善に活用する事業です。

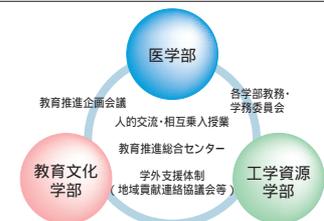
秋田大学が「特色GP」プログラムに採択

第1回特色GPに秋田大学は「三学部連携による地域・臨床型リーダー養成」と題して応募しました。審査の結果、全学が連携体制をとり、「フィールドインターンシップ型授業」という方法によって地域・臨床型リーダー養成を目指していることが他大学の模範事例になると評価され、採択されました。全国で80校、東北地域では秋田大・東北大・秋田県立大・会津大・桜の聖母短大、計5校の採択でした。

秋田大学の三学部連携体制

教育・研究分野が異なる教育文化学部・医学部・工学資源学部が連携体制をとるものです。組織面では教育推進総合センターが推進するほか、学外からは地域貢献連絡協議会等の支援も得ています(図1)。授業面では三学部の教員が教養基礎教育科目を担当し、三学部相互乗入授業も行われています。

三学部連携 (図1)

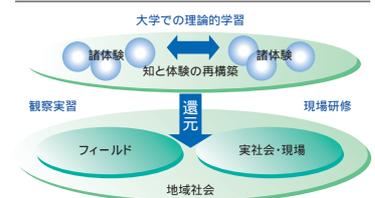


三学部連携は、三学部間の人的交流と相互乗入授業、及び学内・学外連携体制を構築して活用する、人・組織・経費の重層的支援体制を指す。

フィールドインターンシップ型授業

フィールドワークとインターンシップの二語からなる本学の合成語です。授業の特色は現場実習や研修の成果を大学での教育を通じて「知と体験の再構築」をはかり、これを再び社会に還元することにあります。(図2)。

フィールドインターンシップ型授業 (図2)



フィールドインターンシップは本学の合成語。学外での観察・調査・実習と、企業・行政・医療・保健等の現場研修を通じ、大学での理論的学習により「知と体験の再構築」をはかり、その成果を地域社会に還元する力を獲得することを包括した授業。

教育文化学部の教員養成分野では附属学校園との年100回を超える共同研究事業や多彩な臨床実験型授業を行っています。多様な人材を養成する分野では「企業・行政研修」「人間環境学体験実習」等70余のフィールドインターンシップ型授業を実施しています。

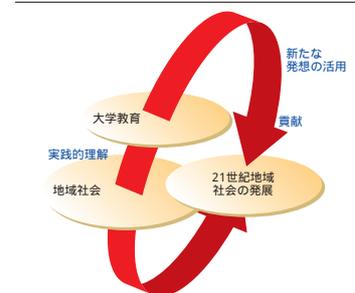
医学部医学科では附属病院で診察体系を一通り経験した後、医師としての実験実習をさらに進めるため6年次に「地域包括保健・医療・福祉実習」を実施しています。保健学科では専門教育への導入として1年次に3日から1週間学外実習を行い、専門臨床として2年次から4年次の6ヶ月間、病院や施設で臨地実習を行っています。

工学資源学部では「創造工房実習」と「インターンシップ」が学部共通科目となっています。特色ある取組として海外に出かけて行う「地質巡検」「地質調査法実習」もあります。

地域・臨床型リーダー養成

地域・臨床型リーダー (図3)

本取組で目指すのは地域社会を実践的視点から理解し、大学教育によって培われる新たな発想を活用して地域の生活環境の向上に貢献できる地域活性化型リーダー、国際化推進の異文化交流に貢献できる地域交流型リーダー養成です(図3)。本学学生のリーダーシップ発揮事例として「ヤートセ秋田祭」(学生・市民参加型の大規模な舞踏祭)の企画と運営、秋田市中心部開発事業への参加(ChangingAKITA)、ウェルフェアテクノハウス研究会活動(秋田県北秋田市)、中南米音楽サークル La・mia (アルゼンチン世界大会出場)の社会活動、市民約500人が参加する40kmの「今日歩大会」の企画と運営、卒業生の海外での活躍等があり、国内外から広く注目されています。



地域・臨床型リーダーとなるためには、単なる経験主義だけでも、また、机上の知識だけでも不十分であり、大学教育に加えて、地域や現場での体験学習を積むことが必要不可欠である。

大学・大学院における教員養成推進プログラム(教員養成GP)

Good Practice Program

教員養成GPとは

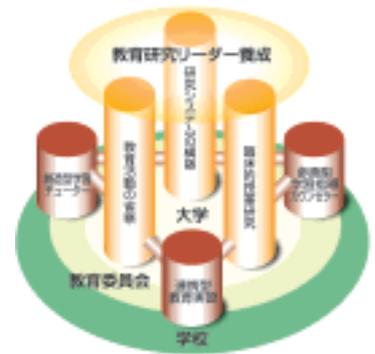
文部科学省が推進している国公私立大学を通じた大学教育改革支援プロジェクトの一つで、高度な専門性と実践的指導力を兼ね備えた義務教育段階の教員の養成に資する優れた取組を選定し、重点的な財政支援を行うものです。学校教育が抱える課題が複雑化・多様化する中であって、社会から信頼される学校づくりを進めるためには、高度な専門性と実践的指導力を兼ね備えた教員の養成が不可欠と考えられ、平成17年度に事業がスタートしました。

平成17年度は、単独大学による申請97件(国公立58件、私立39件)、複数大学による共同申請4件の、計101件の応募がありました。このうち34件が採択され、東北の国公立大学では宮城教育大学と秋田大学のプログラムが選ばれました。

プロジェクトの概要

現在の学校においては、質の高い教育研究を推進できるリーダーが不足し、研究が継続または深化しない場合が少なくないと捉え、学校内の研究組織を活性化させ、効果的に教育研究を推進していく『教育研究リーダー』の養成が課題であるとしました。

そのためには、日常的教育活動を省察する力、臨臨床的な授業研究能力、学校における研究システムを構築する力が必要であると捉え、それらの力は、大学4年間における活動において、大学・教育委員会・附属及び公立学校の連携の基に培われるとしました。

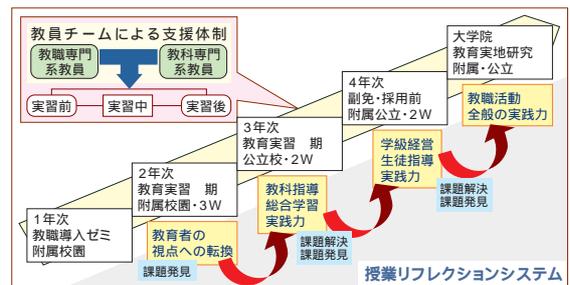


プロジェクトにおける三つの取組

『教育研究リーダー』となるために必要な力は、自らの教育活動を振り返ることから臨床的に授業研究を推進し、研究システムを構築するための幅広い知識と実践力であると捉え、連携型教育実習、創造型学習チューター活動、参画型学習指導カウンセラー活動により築かれるとし、以下のような具体的取組を行うこととしました。

(1) 学部・大学院の6年間にわたって教育実習を設ける「大学附属・公立連携型教育実習」

特色は、学部・大学院の6年間にわたって教育臨床経験を積み、省察活動を行う点、大学教員がチームを組み、全ての事前・実習中・事後指導を一貫して支援する点です。学生は実習校教員と実習前から授業研究をすすめることで、課題発見・解決の力量を身に付けます。

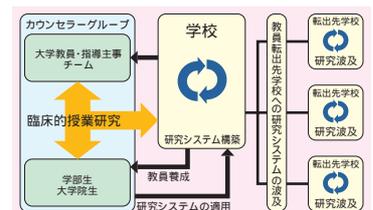


(2) 学生が継続的に児童生徒の学力向上に寄与しつつ、教師としての実践力を磨いていく「地域教育創造型学習チューター」

特色は、学生が放課後や休日に行われる課外活動へ参加し、同時に必ず授業補助を含むチューター活動を行い、教育現場での実践経験を積むことです。計画では、活動の幅を秋田県全体に広げ、僻地校も含めた多様な規模の学校で活動を行うことを予定しています。

(3) 学生が校内研究に参画しながら研究体制の構築方法を習得する「共同参画型学習指導カウンセラー」

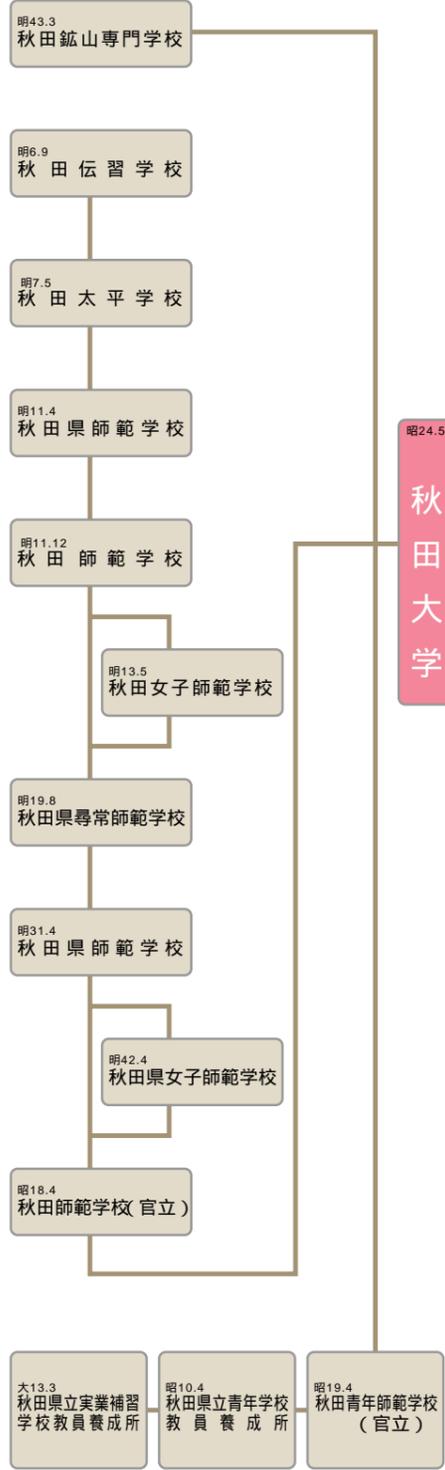
特色は、本学教員が秋田県内の公立学校を訪問し、授業研究に関する指導・助言を行う学習指導カウンセラー事業に際し、訪問グループ内に大学院生と学部生を加える点です。大学教員が校内研究の指導助言を行う過程を教職志望学生が体験する中で、将来的に『教育研究リーダー』として活躍する素地を養うことをねらいとしています。



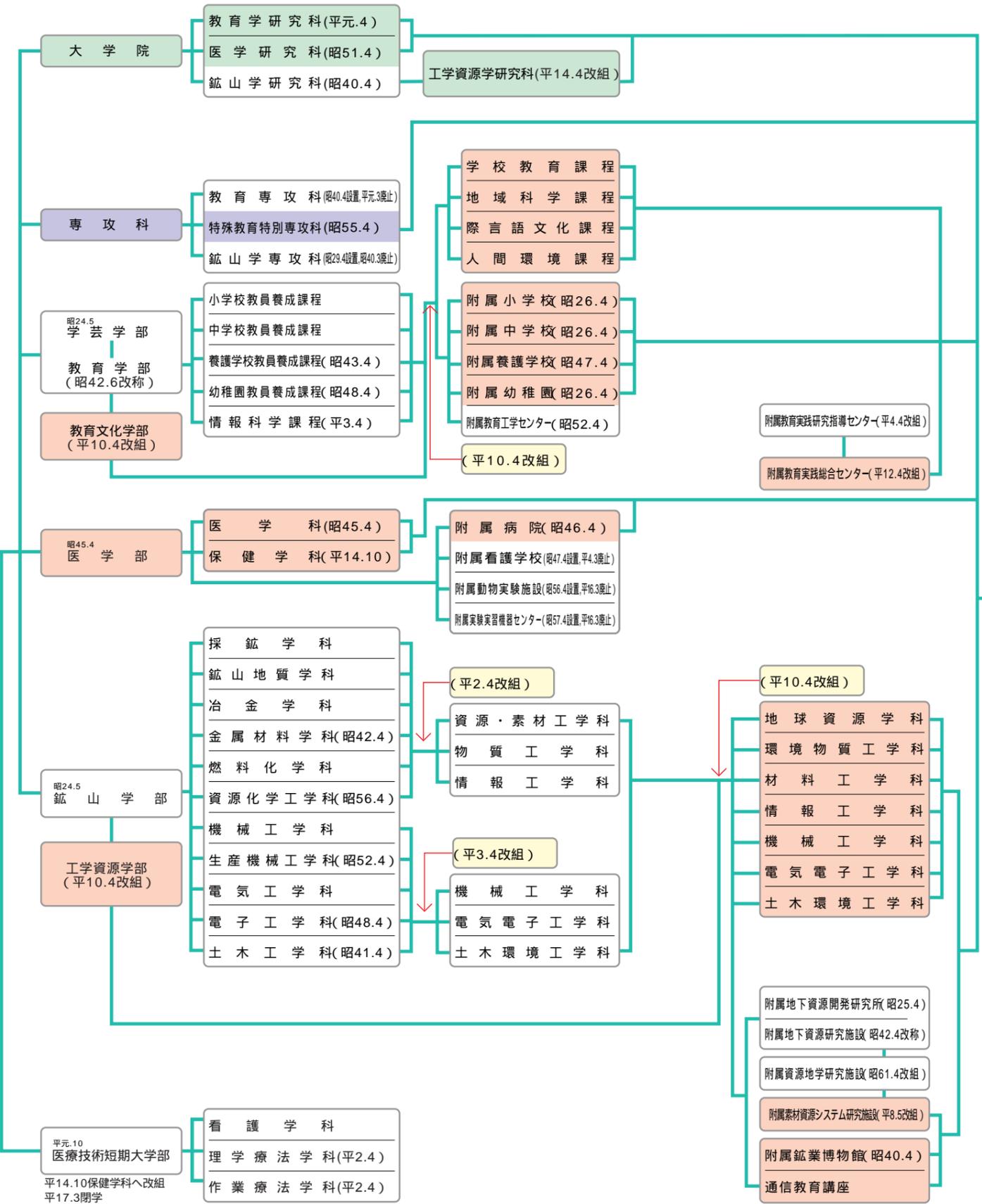
沿革

Historical Sketch

- 大学院
- 専攻科
- 学部
- その他・施設等

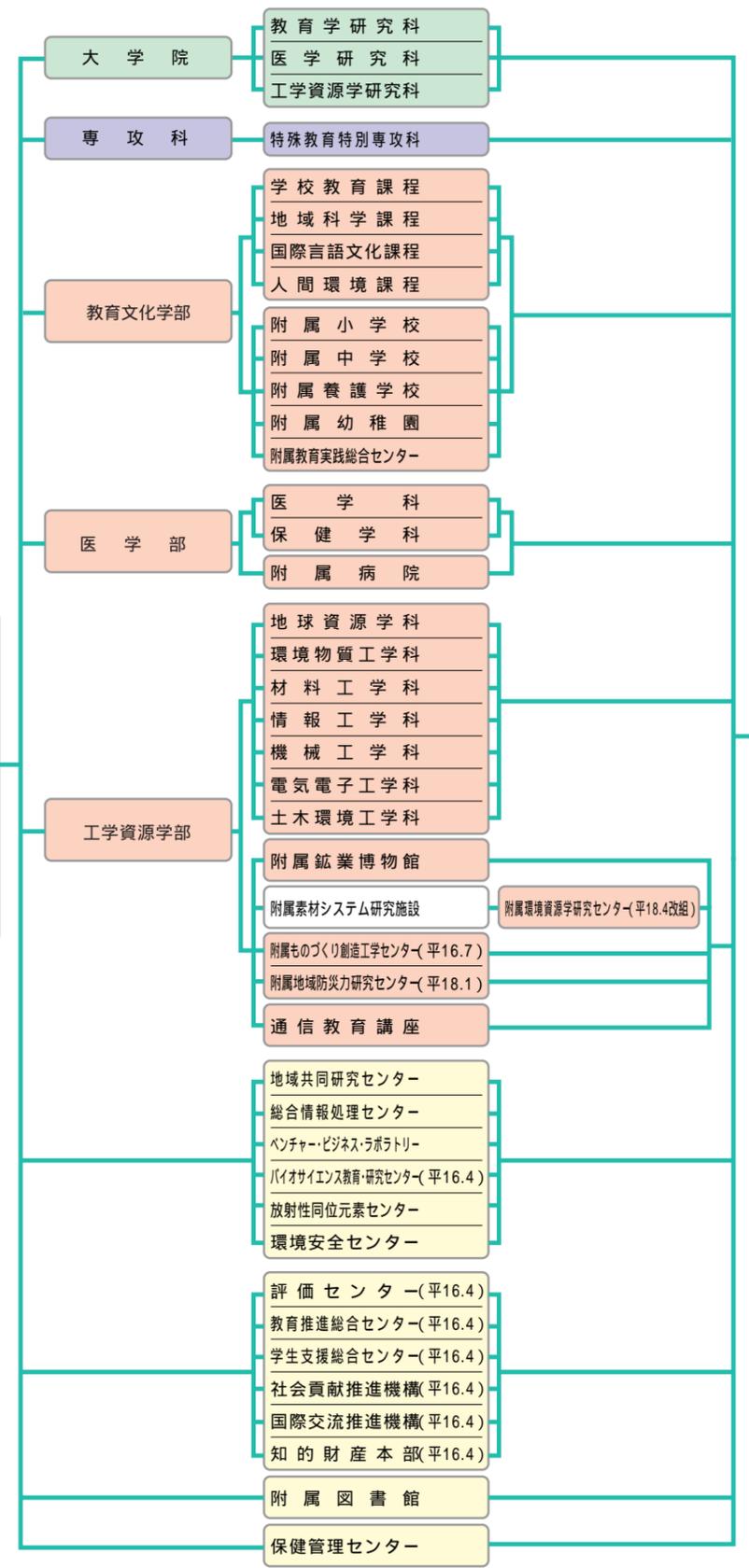


秋田大学



秋田大学

国立大学法人法(平成15年7月16日法律112号)に基づき設置された国立大学



秋田大学

運営組織

Management Organization

監事(2人)Auditors
(うち,非常勤1人)

経営協議会 (10人)

Management Committee

(経営に関する重要事項を審議)

学長
理事(財務担当)〔非常勤〕
理事(総務担当)
医学部附属病院長
学長指名職員
(学長特別補佐(企画調整・評価担当))
学外委員(5人)

役員会 (6人)

Board of Directors

(経営, 教学の両面にわたり, 特定の重要事項について, 学長の意思決定に先立ち議決を行う。)

学長
理事(教育担当)
理事(学術研究担当)
理事(社会貢献・国際交流担当)
理事(財務担当)〔非常勤〕
理事(総務担当)

教育研究評議会 (19人)

Education and Research Council

(教育研究に関する重要事項を審議)

学長
理事(教育担当)
理事(学術研究担当)
理事(社会貢献・国際交流担当)
学長特別補佐(企画調整・評価担当)
教育文化学部長
医学部長
工学資源学部長
附属図書館長
医学部附属病院長
地域共同研究センター長
総合情報処理センター長
教育推進主管
各学部長推薦の当該学部教授(各2人)

学長選考会議 (15人)

President Nomination Committee

理事(教育担当)	学長特別補佐(企画調整・評価担当)
理事(学術研究担当)	教育文化学部長
理事(社会貢献・国際交流担当)	医学部長
理事(財務担当)〔非常勤〕	工学資源学部長
理事(総務担当)	附属図書館長
	経営協議会委員のうち国立大学法人秋田大学の役員又は職員以外の者(5人)

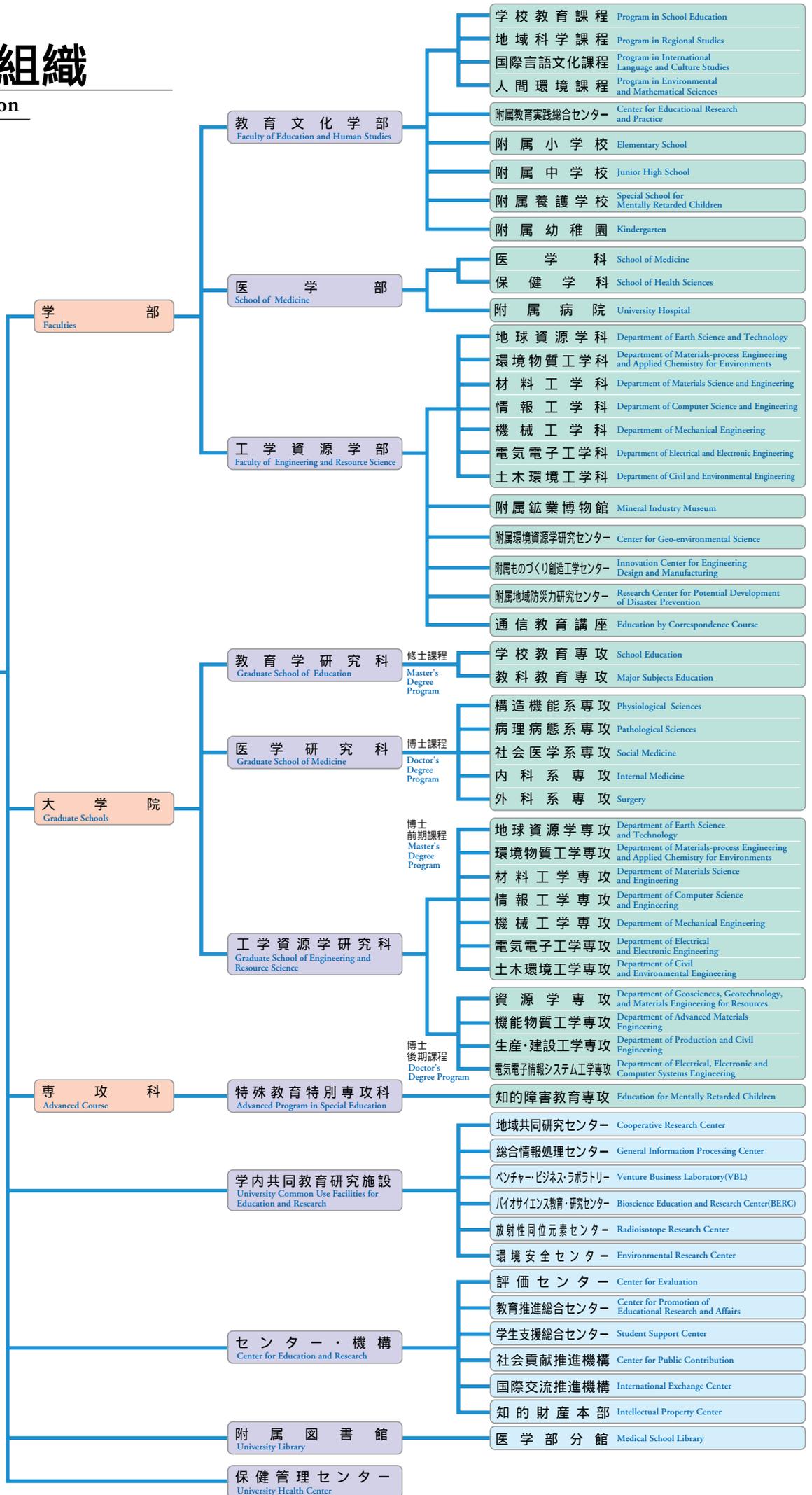
部局長等連絡調整会議 (13人)

学長	学長特別補佐(企画調整・評価担当)
理事(教育担当)	教育文化学部長
理事(学術研究担当)	医学部長
理事(社会貢献・国際交流担当)	工学資源学部長
理事(財務担当)〔非常勤〕	附属図書館長
理事(総務担当)	医学部附属病院長
	経営協議会の学外委員(1人)

教育研究組織

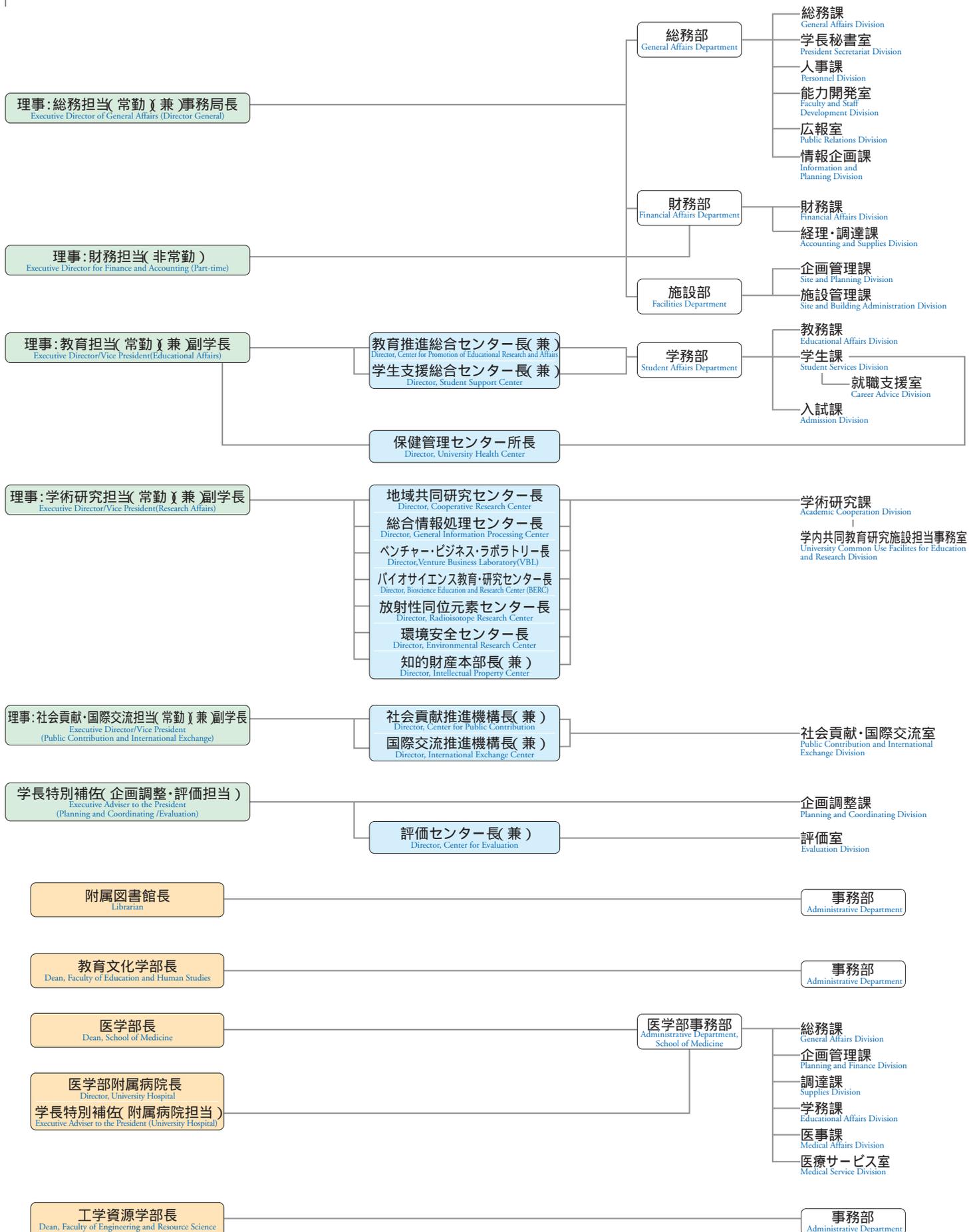
Academic Organization

秋田大学
Akita University



事務組織

Administrative Organization



役職員

Administrative Staff

平成18年7月1日現在

役員会

学長	三浦 亮
理事(教育担当)副学長	池村 好道
理事(学术研究担当)副学長	石尾 俊二
理事(社会貢献・国際交流担当)副学長	吉岡 尚文
理事(財務担当)(非常勤)	白滝 一紀
理事(総務担当)事務局長	山田久仁夫
監事	白田 雅郎
監事(非常勤)	小林 章

経営協議会

学長	三浦 亮
理事(財務担当)(非常勤)	白滝 一紀
理事(総務担当)	山田久仁夫
医学部附属病院長	加藤 哲夫
学長特別補佐(企画調整・評価担当)	井上 浩
お茶の水女子大学名誉教授	伊藤 厚子
工学資源学部北光会会長	菊地 芳朗
秋田魁新報社代表取締役社長	佐藤 暢男
東北大学総長	吉本 高志
秋田商工会議所会頭	渡邊 靖彦

教育研究評議会

学長	三浦 亮
理事(教育担当)副学長	池村 好道
理事(学术研究担当)副学長	石尾 俊二
理事(社会貢献・国際交流担当)副学長	吉岡 尚文
学長特別補佐(企画調整・評価担当)	井上 浩
教育文化学部長	熊田 亮介
医学部長	飯島 俊彦
工学資源学部長	吉村 昇
附属図書館長	石川 三佐男
医学部附属病院長	加藤 哲夫
地域共同研究センター長	玉本 英夫
総合情報処理センター長	坂田 真人
教育推進主管	河谷 正仁
教育文化学部教授	立花 希一
教育文化学部教授	對馬 達雄
医学部教授	榎本 克彦
医学部教授	浅沼 義博
工学資源学部教授	小沢 泉太郎
工学資源学部教授	川上 洵

事務局等

事務局長	山田久仁夫
総務部長	加藤 莊一
総務課長	郷路 健二
学長秘書室長	郷路 健二
人事課長	佐藤 貢
能力開発室長	佐藤 貢
広報室長	米塚 清
情報企画課長	佐藤 金壽
財務部長	河西 愛次
財務課長	倉持 光雄
経理・調達課長	間杉 敏行
施設部長	菊池 健
企画管理課長	川村 英夫
施設管理課長	太田 正孝
学務部長	薄田 堯明
教務課長	三國谷 時雄
学生課長	阿部 敏樹
入試課長	佐々木 俊二
企画調整課長	青木 正弘
評価室長	青木 正弘
学术研究課長	保坂 勇悦
社会貢献・国際交流室長	加藤 秀憲

センター・機構等

地域共同研究センター長	玉本 英夫
総合情報処理センター長	坂田 真人
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長	菅原 勝康
バイオサイエンス教育・研究センター長	鈴木 聡
放射性同位元素センター長	泰松 齊
環境安全センター長	大谷 規隆
評価センター長	井上 浩
教育推進総合センター長	池村 好道
学生支援総合センター長	池村 好道
社会貢献推進機構長	吉岡 尚文
国際交流推進機構長	吉岡 尚文
知的財産本部長	石尾 俊二
保健管理センター所長	苗村 育郎
教育推進主管	河谷 正仁

附属図書館

館長	石川 三佐男
医学部分館長	高田 五郎
事務長	伊藤 重範

教育文化学部

学部長	熊田 亮介
事務長	三浦 勲
附属小学校長	佐藤 稔
附属中学校長	笠原 幸生
附属養護学校長	石黒 純一
附属幼稚園長	藤田 静作
附属教育実践総合センター長	對馬 達雄

医学部

学部長	飯島 俊彦
附属病院長	加藤 哲夫
事務部長	椎名 幸男
総務課長	工藤 美明
企画管理課長	山崎 賢司
調達課長	高橋 康一
学務課長	永井 讓
医事課長	小玉 功
医療サービス室長	小玉 功

工学資源学部

学部長	吉村 昇
事務長	笹本 達見
附属鉱業博物館長	丸山 孝彦
附属環境資源学学術センター長	吉村 昇
附属ものづくり創造工学センター長	土岐 仁
附属地域防災力研究センター長	松富 英夫

大学院

教育学研究科長	熊田 亮介
医学研究科長	飯島 俊彦
工学資源学研究科長	吉村 昇

教育文化学部・教育学研究科・特殊教育特別専攻科

Faculty of Education and Human Studies / Graduate School of Education / Advanced Program in Special Education

教育文化学部

教育文化学部は、教員養成と地域社会、国際社会、環境関連分野で活躍できる人材の養成を目的とし、4つの課程で構成されています。

学校教育課程：次世代を育てる教員の養成

- 1.幅広い社会的視野にたつて、子どもの心を理解する柔軟性のある教員
- 2.今日の教育的病理を克服し得る指導力・問題解決能力を備えた教員
- 3.情報処理及び活用能力を備えた教員
- 4.「ふるさと教育」など地域的課題を理解し実践できる教員

地域科学課程：地域社会に貢献する人材の養成

- 1.地域社会の活性化に向けて、企業や行政など多様な分野で活動できる人材
- 2.生活者の視点から地域活動計画を立案し実践できる人材
- 3.地域文化を発見・再評価し、新たな文化資源・環境のあり方やその活用方法を提示できる人材

国際言語文化課程：国際交流に貢献する人材の養成

- 1.地域における国際交流に貢献できる人材
- 2.環日本海地域間協力・交流システムづくりに貢献できる人材
- 3.海外諸国において、日本文化の深い理解とコミュニケーション能力を基礎として異文化交流に携わる人材
- 4.外国語を活かせる分野で活躍できる人材

人間環境課程：人間生存環境を構築する人材の養成

- 1.望ましい快適環境を提案できる人材
- 2.人間の生活を支える生物環境資源の持続的利用・管理のための方策を提示できる人材
- 3.自然生態系の保全のあり方を提示できる人材
- 4.自然環境の急速な変化に対応できる生活防衛システムづくりや情報化社会における人工環境のシステム構築に貢献できる人材



課 程	選 修	講 座
学 校 教 育	教科教育実践	教科教育学 音楽教育 美術教育 スポーツ・健康教育
	障害児教育	障害児教育
	発達科学	発達教育 教育心理学
地 域 科 学	政策科学	政策科学
	生活者科学	生活者科学
	文化環境	文化環境
国 際 言 語 文 化	日本・アジア文化	日本・アジア文化
	欧米文化	欧米文化
	国際コミュニケーション	国際コミュニケーション
人 間 環 境	自然環境	自然環境
	環境応用	環境情報 基礎数理

教育学研究科

大学院教育学研究科は、平成元年に5専修で創設し、平成9年にすべての教科に対応する11専修を整えました。さらに平成14年に時代の要請を受けて心理教育実践専修を発足しました。

本研究科は、21世紀の初等中等教育を担う優れた質の高い教員の養成を目的としており、現職教員の受け入れのほか、海外からの入学も積極的に進めています。

また、修了者は年々、学校現場、県教委等で指導的な役割を果たしています。

課 程	専 攻	専 修
修 士 課 程	学校教育専攻	学 校 教 育 専 修
		心 理 教 育 実 践 専 修
	教科教育専攻	国 語 教 育 専 修
		社 会 科 教 育 専 修
		数 学 教 育 専 修
		理 科 教 育 専 修
		音 楽 教 育 専 修
		美 術 教 育 専 修
		保 健 体 育 専 修
		技 術 教 育 専 修
		家 政 教 育 専 修
英 語 教 育 専 修		



特殊教育特別専攻科

特殊教育特別専攻科は、特殊教育(障害児教育・特別支援教育)の充実を図るために、主に知的障害児を教育する養護学校の教員を養成する目的で設置されています。現在は、一般社会人を含む多くの人を対象に、障害児教育の専門家の育成を行っています。

医学部

医 学 科 医学科では、適切な科学・医学知識や医療技術を習得した上で、豊かな文化的教養を身に付け、臨床研修や基礎研究を始めるために必要な意欲と能力を持つ人材を育成するとともに、高度先進医学・医療を推進し、地域社会における医療・福祉の充実に貢献することを目標としています。

平成15年4月に講座の再編を行い、4つの基礎医学講座と6つの臨床医学講座に移行しました。バイオサイエンス教育・研究センターと有機的に連携しながら、教育及び研究の充実・発展を図っています。

基礎医学講座		臨床医学講座		
大 講 座	分 野	大 講 座	分 野	
構造機能医学	形態解析学	内科学	消化器内科学	
	細胞生物学		神経内科学	
	器官構造学		循環器内科学	
	分子医科学		呼吸器内科学	
	分子機能学		血液内科学	
	代謝機能学		腎臓内科学	
機能制御医学	細胞制御学		外科学	内分泌・代謝・老年医学
	器官制御学			消化器外科学
	統合制御学	呼吸器外科学		
	情報制御学	心臓血管外科学		
	実験治療学	小児外科学		
	医用工学	神経運動器学	脳神経外科学	
病理病態医学	分子病態学		精神科学	
	器官病態学	整形外科学		
	腫瘍病態学	感覚器学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	
	感染制御学		眼科学	
	生体防御学		皮膚科学・形成外科学	
	病原微生物学	生殖発達医学	小児科学	
社会環境医学	法医科学		産婦人科学	
	環境保健学	泌尿器科学		
	健康増進医学	統合医学	麻酔科学・蘇生学	
	医科学情報学		救急・集中治療医学	
	国際交流		放射線医学	
			臨床検査医学	

保健学科 保健学科は平成14年10月に設置された新しい学科で、平成15年4月から学生を受け入れております。3専攻(8講座)を有し、豊かな感性と高い教養、医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身に付け、国民の健康と医療・福祉に貢献できる医療技術者、並びに教育・研究の発展に寄与できる創造性豊かな人材を育成します。また、教育の礎となり、健康科学に広く関わる知識と技術の発展に資する研究を目指し、社会に貢献します。

専攻	講座
看護学 (4講座)	基礎看護学
	臨床看護学
	母子看護学
	地域・老年看護学
理学療法学 (2講座)	基礎理学療法学
	臨床理学療法学
作業療法学 (2講座)	基礎作業療法学
	臨床作業療法学



医学研究科

大学院医学研究科は、最先端の医学・医療を学ぶ向上心と意欲を修得させるとともに、国際的な視野に立ち、専攻分野あるいはその隣接領域について自立した研究活動を行い、高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有する研究・教育者あるいは高度職業人を養成しています。

課程	専攻
博士課程	構造機能系専攻
	病理病態系専攻
	社会医学系専攻
	内科系専攻
	外科系専攻



工学資源学部・工学資源学研究科

Faculty of Engineering and Resource Science / Graduate School of Engineering and Resource Science

工学資源学部

工学資源学部は、地球環境と調和のとれた資源学と、豊かな人間性を支える工学の発展に寄与できる技術者及び研究者の養成を行います。

資源系では地球規模となった資源・環境・エネルギー問題の解決のための教育・研究の発展を図り国際的に活躍できる資源技術者の養成を行います。一方、工学系においては、先端分野・学際分野への展開を継続しながら、地域の課題である高齢化への対応や新たな産業の創出などへ寄与できる教育・研究分野の充実を図り、地域の産業を担う人材の養成を行います。

教育と研究の基本的な視点

1. グローバリゼーション時代の資源学への対応
2. 社会の要請に応える人材の養成
3. 地域社会への積極的な貢献

学部の特色

1. 幅広い入学者の受け入れ
2. 独創性、起業家精神の育成
3. 先端的研究の進展
4. 国際的な資源技術者の養成
5. 地域社会の問題への取り組み



具体的な教育カリキュラムの編成

1. 応用力や創造性を重視した専門教育(創造工房実習, フィールド実習)
2. 社会における科学技術の役割の実習(環境と安全, 技術者倫理学, 技術史, 鉱業史)
3. 国際性を養う専門教育(海外実習, テクニカルコミュニケーション, 外国文献講読)
4. プロポーザル能力の養成(研究プロポーザル)
5. 入学から卒業までの継続性を重視した4年一貫教育(初年次ゼミ, 高学年特別講義)
6. 情報処理能力の養成(情報処理の技法)
7. 職業意識を高める実践教育(インターンシップ)
8. 大学, 学部, 学科を越えた履修範囲(自由科目, 他大学との単位互換)

学 科	講 座			
地球資源学科	応用地球科学	地球システム工学		
環境物質工学科	素材プロセス工学	環境・素材設計工学	分子機能化学	化学システム学
材料工学科	材料物性学	知能材料学	エネルギー材料学	材料開発工学
情報工学科	人間情報工学	産業情報工学	数理情報工学	
機械工学科	機械物理工学	機械ダイナミクス	システム設計	ロボティクス・福祉工学
電気電子工学科	電気エネルギー工学	光・電子デバイス工学	知能情報通信工学	制御システム工学
土木環境工学科	福祉環境工学	環境構造工学	地域環境工学	

工学資源学研究科

工学資源学研究科は、工学資源学部の設立理念に立ち、新しい研究領域を創出するため、学部の学科に対応する前期課程は7専攻とし、新たな理念に基づいた後期課程4専攻としました。

前期課程各専攻

国際的に活躍する資源専門技術者、環境技術や先端化学技術に貢献する専門技術者、先端機能材料の開発を目指す専門技術者、マルチメディア社会に即応できる専門技術者、人と環境にやさしい機械システムの開発に貢献できる専門技術者、創造的エレクトロニクス専門技術者、ノーマライゼーション理念で社会基盤設計を行う専門技術者の養成

課 程	専 攻	講 座
博士前期課程	地 球 資 源 学	応用地球科学 地球システム工学
	環 境 物 質 工 学	素材プロセス工学 分子機能化学 環境・素材設計工学 化学システム学
	材 料 工 学	材料物性学 エネルギー材料学 知能材料学 材料開発工学
	情 報 工 学	人間情報工学 数理情報工学 産業情報工学
	機 械 工 学	機械物理工学 システム設計 機械ダイナミクス ロボティクス・福祉工学
	電 気 電 子 工 学	電気エネルギー工学 知能情報通信工学 光・電子デバイス工学 制御システム工学
	土 木 環 境 工 学	福祉環境工学 地域環境工学 環境構造工学

後期課程各専攻

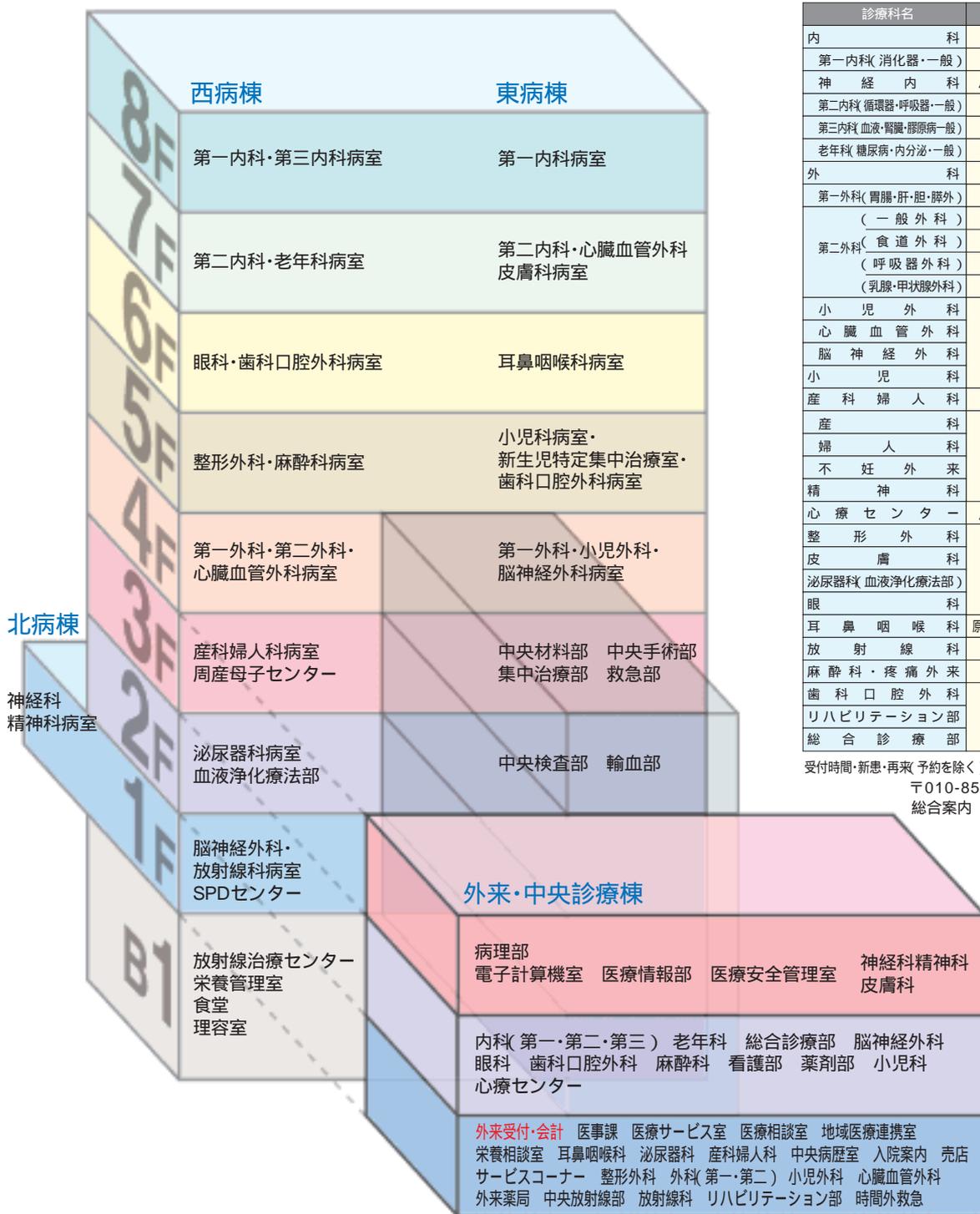
地球の資源・物質環境を考えた総合的な資源学の体系化、物質に関する広範囲の知識を総合した開発、組織的なものづくりと生活基盤整備、電気電子技術を基盤とした情報技術の開発

課 程	専 攻	講 座
博士後期課程	資 源 学	資源地球科学 環境資源サイクル工学 資源環境学
	機 能 物 質 工 学	機能材料工学 環境応用化学
	生 産 ・ 建 設 工 学	生産システム工学 福祉システム工学 社会基盤工学
	電 気 電 子 情 報 シ ス テ ム 工 学	電気情報基盤システム工学 電子情報基盤システム工学

医学部附属病院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成6年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することを通して、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心として役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。

病院案内図



「各診療科の受付曜日・時間等」のご案内

平成18年4月1日現在

診療科名	新 患	再 来
内 科		
第一内科(消化器・一般)	火・金	月～金
神 経 内 科	月・火・木・金	月・火・木・金
第二内科(循環器・呼吸器・一般)	月・水	
第三内科(血液・腎臓・膠原病一般)	月・木	月～金
老年科(糖尿病・内分泌一般)	火・金	
外 科		
第一外科(胃腸・肝・胆・膵外)	月～金	月～金
(一般外科)	月～金	月～金
第二外科(食道外科)	木	木
(呼吸器外科)	火	火
(乳腺・甲状腺外科)	月・水	月・水
小 児 外 科		
心 臓 血 管 外 科	月～金	月～金
脳 神 経 外 科		
小 児 科		
産 科 婦 人 科		
産 科		月・火・水・木
婦 人 科	月～金	月・火・木・金
不 妊 外 来		月・火・水・金
精 神 科		月～金
心 療 セ ン タ ー	月・火・木・金	月・火・木・金
整 形 外 科		
皮 膚 科	月～金	月～金
泌尿器科(血液浄化療法部)		月・水・金
眼 科		
耳 鼻 咽 喉 科	原則として火・木・金	月～金
放 射 線 科	月～金	
麻 酔 科・疼 痛 外 来	水・木	水・木
歯 科 口 腔 外 科		
リハビリテーション部	月～金	月～金
総 合 診 療 部		

受付時間・新患・再来(予約を除く)とも8:30～10:30(全診療科共通)
〒010-8543 秋田市本道一丁目1-1
総合案内 TEL:018-834-1111(代)

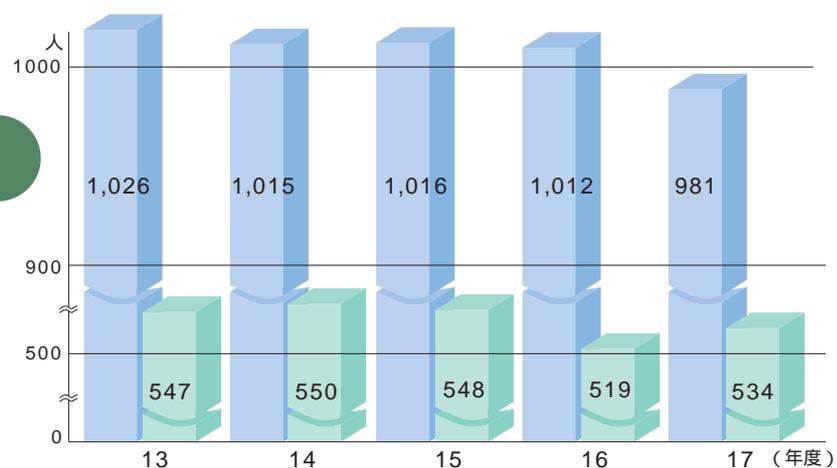
診療科	平成17年度延患者数	
	入院	外来
第一内科	20,495人	28,936人
第二内科	16,975	21,162
第三内科	13,566	12,096
老年科	3,734	14,819
第一外科	12,266	4,472
第二外科	10,045	8,470
心臓血管外科	5,922	1,820
脳神経外科	8,986	6,567
小児外科	3,159	1,808
小児科	10,873	9,172
産科婦人科	15,605	16,981
神経科精神科	10,997	23,566
整形外科	11,794	19,317
皮膚科	4,747	15,052
泌尿器科	12,749	11,957
眼科	8,628	11,788
耳鼻咽喉科	12,856	15,347
放射線科	7,492	2,024
麻酔科	442	2,577
歯科口腔外科	3,539	11,445
合計	194,870	239,376

中央診療施設等
中央検査部
中央手術部
中央放射線部
中央材料部
集中治療部
救急部
輸血部
リハビリテーション部
医療情報部
血液浄化療法部
中央病歴部
周産母子センター
病理部
総合診療部
治験管理センター
医療機器管理センター
移植検査センター
卒後臨床研修センター
光学医療診療部
遺伝子医療部

病床数：610

年度別1日平均患者数

■ 外来患者数
■ 入院患者数



開館時間

区 分	本館・医学部分館	春季・夏季・冬季 休業期間中
平 日	8:30～21:00	8:30～17:00
土・日・祝	10:00～17:00	閉 館



本館ブラウジングコーナー



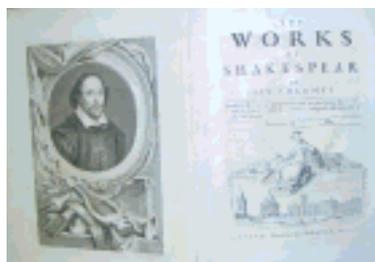
本館(正面玄関)

附属図書館は本館(手形地区)と医学部分館(本道地区)があり、図書・雑誌・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と、その蓄積された情報の提供を行っています。

蔵書は本館が約393千冊、医学部分館が約98千冊となっています。

附属図書館では次のようなサービスを行い、学生・教職員の学習・教育・研究の支援をしています。

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 閲覧サービス | 5. 各種文献 |
| 2. 貸出サービス | データベースサービス |
| 3. 文献複写サービス | 6. 電子ジャーナル |
| 4. 蔵書検索サービス | 7. 図書館ホームページ |



特別コレクション
18世紀に出版された
シェイクスピア全集等を
所蔵しています。

地域に開かれた図書館として学外の方も気軽に利用できます。館内閲覧や館外貸出(利用者カードを発行します)もできます。また、地域においてボランティア活動を希望される方々のために「図書館ボランティア」を募集しています。現在、5名の方々が本館・医学部分館において図書館ボランティアとして、ご活躍いただいております。

詳細についてのお問い合わせは

本館: 利用サービス係
電話 018-889-2279
E-mail: riyo@lib.akita-u.ac.jp/
本館HP: <http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

医学部分館: 図書係
電話 018-884-6052
E-mail: medlib@lib.akita-u.ac.jp/
分館HP: <http://libra.med.akita-u.ac.jp/>



本館2階閲覧室



医学部分館情報検索コーナー

教育文化学部附属学校園

Affiliated School

平成18年5月1日現在

区 分	総 定 員	学 級 数	現 員									
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			
附 属 小 学 校	720	18	107	102	102	107	112	115	645			
附 属 中 学 校	480	12	154	148	144	/			446			
附 属 養 護 学 校	小学部	18	3	5					5		6	16
	中学部	18	3	6	5				7	/		
	高等部	24	3	9	8	10	27	38	27			
附 属 幼 稚 園	2年保育	100	5	/		4歳児	27	5歳児	38	65		
	3年保育	60				3歳児	20	4歳児	20	5歳児	18	58



附属小学校



附属中学校



附属養護学校



附属幼稚園

学部附属教育研究施設

Facilities for Education and Research

学 部	施 設 名	施 設 目 的	研 究 部 門 等
教育文化学部	教育実践総合センター	学習環境及び教育臨床等の教育実践に関する総合的研究	学習環境研究部門 教育臨床研究部門 臨床心理相談室
工学資源学部	鉱業博物館	鉱業に関する研究調査 鉱業関係の博物館資料の収集保管及び展示	標本資料 / 約16,500点 模型 / 約200点
	環境資源学研究センター	循環型社会における環境資源学の創成・発展及び新素材の機能開発並びにその地球環境の関わりを総合的に研究	地球環境研究分野 資源環境型地域社会形成研究分野 環境調和型材料プロセス研究分野 生物・工学融合研究分野
	ものづくり創造工学センター	ものづくり教育の推進と創造型エンジニアの育成 地域社会への貢献	創造工学教育部門 教育・研究支援部門 地域連携・広報部門 分析・評価部門
	地域防災力研究センター	自然災害の防止・軽減に資する研究を推進するとともに、地域の防災・減災に関する研究と支援等を通して、安全・安心な地域社会の形成に貢献する	地震災害分野 津波災害分野 河川災害分野 斜面災害分野 火山災害分野 情報・計画分野



教育実践総合センター



環境資源学研究中心



鉛業博物館



ものづくり創造工学センター



地域防災力研究センター

鉱業博物館

Mineral Industry Museum

平成18年度鉱業博物館行事

【前期企画展】

「石の記憶 - ヒロシマ・ナガサキ - 」
(平成18年7月8日～8月20日)

【後期企画展】

「秋田県の活断層(仮称)」
(平成18年10月1日～11月10日予定)

【ジュニアサイエンススクール】

植物化石採集と整理
(平成18年8月1日(火)・2日(水))
対象:小学5年～6年生

【子供科学教室】

「テーマ未定」
(平成19年1月上旬予定)対象:小学校高学年～中学生



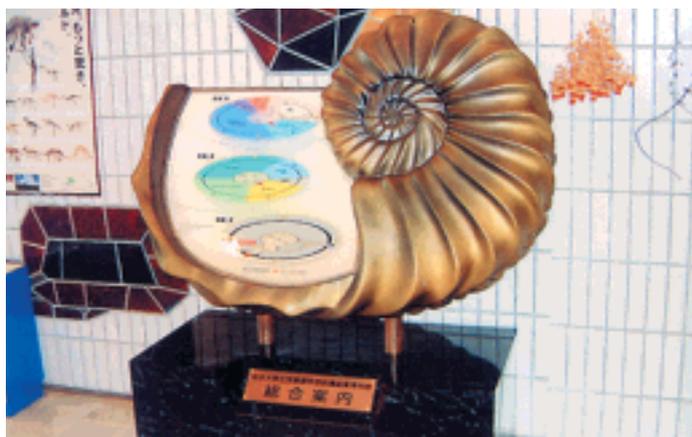
開館時間:9時～16時

休館日:毎週月曜日(但し月曜日が祝日の場合は翌日)
:年末年始(12月26日～翌年1月5日)

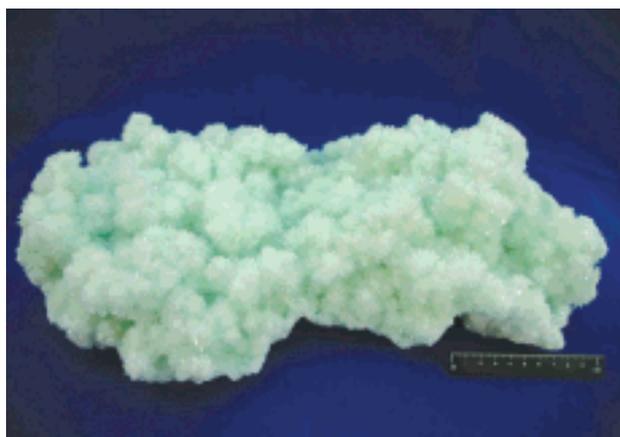
入館料:

個人	大人250円 小人(中学生以下)130円
----	-------------------------

団体 (30名以上)	大人190円 小人(中学生以下)100円
---------------	-------------------------



1階総合案内



3階展示室 石膏(オーストラリア,Whyalla産)



平成17年度ジュニアサイエンススクール 鉱物採集と整理

1. 学生支援総合センターでの取り組み

平成16年4月に発足した学生支援総合センターにおいて、様々な側面から学生生活への支援を行っています。その中の就職活動支援部門では、学生が卒業後、自分の志望を達成できるように支援を行っています。

具体的には、以下のような支援事業を実施しています。

学生に早い段階で、しっかりとした職業観を身に付けさせるために、1年次の初年次ゼミの時間に「職業観について考えるためのプログラム」を設け、また1～3年次を対象に「キャリア形成入門」を開設しています。

様々なセミナー、講演会、企業説明会を開催し、それらに参加することで学生は、自分の能力を發揮できる分野、求められている人材、評価されるための手段等、自身で判断し責任ある行動をとれるよう支援を行っています。

公務員等を志望する学生のために、実践セミナー等を開催しています。

2. 各学部の就職支援体制

教育文化学部: 就職情報室を設置し、学生が活用できるよう、就職に関するデータを収集整理しています。また、試験対策、エントリーシートや志望動機の書き方、面接を受ける際の注意点等について学部の就職委員や就職情報室のスタッフが常時相談できる体制を取っています。

工学資源学部: (株)リクルートを経て現在田沢湖スキー場代表取締役を務めている若杉清一氏をアドバイザーとして迎え、就職活動アドバイザー室を開設し、学生が就職に関する一切の事柄に関して相談できる体制を整備しています。

医学部医学科: 平成16年から臨床研修必修化制度が始まり、医師免許取得後2年間は、プライマリ・ケアの基本的な診療能力の習得を目指して、各科のスーパーローテーション研修が義務付けられました。本学では必修化が始まる2年前から附属病院内に卒後臨床研修センターを設置して具体的な準備を進めてきました。同センターでは、研修プログラムの作成やマッチングに関わる事務手続きの一切を行っています。研修に関する説明会は年数回行います。



センター及び機構

Center for Education and Research

評価センター

目的

- 1.秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援
- 2.評価とそのシステムについての研究・開発

体制及び業務

秋田大学の自己点検・評価活動の支援
秋田大学の中期目標・中期計画の実施及び評価についての対応
外部評価及び第三者評価に対応した
学内調整や取りまとめ 報告書の作成
学内の教育・研究活動 自己点検・評価活動の成果や
経緯を示す資料の収集・整理・蓄積 情報の公開
「大学評価」についての方法やシステムの開発
評価活動に関わる広報活動
評価活動に関わる研究会・ワークショップの開催
評価活動の結果を各部局に還元し、各部局と連携をとりながら、
教育・研究、管理運営の改善に向けた支援・研究活動を実施

各学部等評価関連委員会

点検・評価結果
の報告

支援

評価センター

点検・評価結果
の報告

評価

・国立大学法人評価委員会
・第三者認証評価機関
・その他外部評価関連組織

教育研究評議会

教育推進総合センター

目的

- 1.教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進
- 2.教養基礎教育及び専門教育の調査・研究・開発・評価による改善・充実
- 3.入学者選抜に関する調査・研究による入学試験の改善

3つの部門と業務

教養基礎教育を中心とする
教育内容・教育方法・教育環境に関する
調査・研究・開発・評価
教育活動に関する
ファカルティ・ディベロップメント(FD)

教育開発部門

教育活動部門

入学者選抜部門

教養基礎教育を中心とする
大学教育の実施・運営
カリキュラムの企画・立案
履修上の教育支援

入学者選抜に関する
広報及び情報開示
調査・研究
入学試験の改善

学生支援総合センター

目的

- 1.種々の生活相談及び授業料免除や奨学金交付推薦等の生活支援
- 2.大学祭等の課外活動の支援及び課外活動施設の整備・充実の推進
- 3.就職ガイダンスの実施及び就職情報の提供等による就職活動支援

3つの部門と業務

学生相談及びメンタルヘルス相談
授業料等の免除及び猶予
学園だより等の編集
奨学金
学生寮
学生表彰

学生生活支援部門

課外活動支援部門

就職活動支援部門

学生が行う団体活動の支援
学生の研修を企画・実施
学生が計画した行事を支援
課外活動施設の管理・運営
大会会館及び乳頭ロッジの管理・運営

就職ガイダンスの実施
就職情報の分析及び提供
就職相談
就職先の開拓

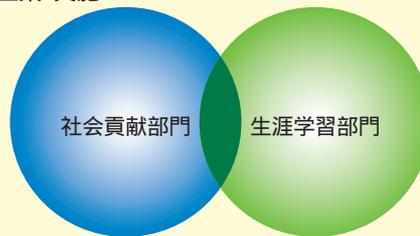
社会貢献推進機構

目的

1. 人的・物的資源や総合力を活用した社会・地域への貢献
2. 教育・研究の成果を地域社会に還元・提供するための、生涯学習社会に対応した諸事業の継続実施

2つの部門と業務

社会・地域に貢献する事業の企画・立案・実施



生涯学習社会に対応した諸事業の企画・立案・実施

国際交流推進機構

目的

1. 国際交流に関する企画・広報活動
2. 国際学術交流の推進
3. 国際教育交流の推進

3つの部門と業務

情報提供体制の充実
国際化推進セミナー等の実施

企画・広報部門

交流協定校の拡充
活動支援体制の整備

共同研究・研究者交流・
国際会議開催の促進と支援

国際学術交流部門

国際教育交流部門

留学生受入れ体制の整備
学生の海外派遣体制の整備

知的財産本部

目的

知的創造サイクルの構築による学術研究・教育の発展と社会貢献

業務

本学

発明 特許・権利化 マーケティング ライセンシング

企業等

学内共同教育研究施設等

University Common Use Facilities for Education and Research

地域共同研究センター



目的等

民間機関との共同研究や民間への学術情報の提供、研究開発に関わる技術相談などを行うための施設です。また、ベンチャー育成講座を実施するなど学生に対する実際的な応用教育の面で学生教育とも大きな関わりがあります。

総合情報処理センター



目的等

約200台の教育用端末と高速なキャンパスネットワークを運用しています。教職員、大学院生、学部生など誰でも利用でき、教育研究に活用されています。学内のインターネットの利用や科学技術計算、データ処理などのコンピュータ環境を提供しています。

放射性同位元素センター



目的等

放射性同位元素を使用した研究・教育・放射線障害防止訓練の指導を目的として運営されています。化学実験室、放射能測定室などからなり、特に低温状態での非密封線源を用いる実験に適した低温実験室を備えており、より高度な研究を可能にしています。また、線源の地下格納や自動制御による実験室の放射線測定など作業環境の安全確保に努めています。

環境安全センター



目的等

教育研究及び診療に伴い生じる有害物質を含んだ廃液等の処理を行い環境保全に資するため、有害廃液等を無機系廃液、有機系廃液及び有害固形廃棄物に区分し、分別収集により、これらの適正処理・処分を行っています。多種・多様な性状を有する廃液等は研究機関特有であるため、処理技術の検討・改善を行い適正処理に努めています。また、学内外において環境科学等に係る教育・実習及び共同研究を実施しています。

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー



目的等

希少元素は世界的に埋蔵量の少ない貴重な資源ですが、IT産業やナノテクノロジーでは必要不可欠な物質です。ラボラトリーでは、「希少元素物質のリサイクル技術の開発と高度素材設計」を目的とした教育・研究を進めています。さらには、新産業の創出も目指しています。

バイオサイエンス教育・研究センター



目的等

これまであった医学部附属動物実験施設・医学部附属実験実習機器センター・医学部R1センターの3つの共同教育研究施設を統合して、大学のみならず地域の研究施設や医療施設、企業の研究者も効率的に利用できる全学施設として平成16年度に設置されました。ライフサイエンス研究のための最新解析機器の提供、パイオ関連実験サービスの提供、遺伝子改変動物の作成、実験動物の適切な管理、放射線同位元素を用いた実験環境の提供などのサービス業務を行っているほか、学内のパイオ関連研究の適正審査、福祉・医療技術の開発・応用研究、新規実験動物の作成・開発研究などの研究活動も同時に展開しています。

戸賀臨海実習所



目的等

学芸学部創立90周年並びに手形統合記念事業として、卒業生、教職員等の協力で昭和39年12月に男鹿半島戸賀湾の一角に建設された施設で、研修室や50人収容の宿泊室などを整備し、男鹿半島の自然、地質、生物、人文科学等の調査の基地として活用できるだけでなく、学生の研修及び課外活動並びに職員の研修及び福利厚生に資することを目的としています。

乳頭ロッジ



目的等

本学学生の研修・課外活動、職員の研修及び福利厚生施設として、平成8年11月に設けられた施設です。同施設は、十和田八幡平国立公園の南部、乳頭温泉郷(秘湯全国の温泉100選)の一角にあり、周辺は高山植物の宝庫といわれる秋田駒ヶ岳、深度日本一の田沢湖など、また乳頭キャンプ場、田沢湖スキー場など豊かな自然環境に恵まれ、四季を通じて多様な活動が可能なところです。

福利厚生施設等

Welfare Facilities, etc.

保健管理センター



健康診断

案内

- 1) 定期学生健康診断
 新入学生、卒業・修了年次学生.....4月中旬
 在学生.....5月中旬
- 2) 健康相談
 ・内科の健康相談.....毎日(午後)
 ・悩み事、心の健康相談.....毎日(午後)
 ・皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科の健康相談.....毎月1回
- 3) 応急処置
- 4) 健康診断書の発行

大学会館



本道会館

手形キャンパス内の
大学会館(クレール)

手形キャンパス

- 1) 開館時間 平日8:30~20:00
 土曜日11:30~13:30
- 2) 食堂(704席)
- 3) 食品・弁当コーナー
- 4) 書籍・文具コーナー
- 5) 喫茶室(12席)
- 6) アメニティーコーナー
 (自由に話しし合うための場)
- 7) 研修室(3室)和室(2室)
- 8) アルバイトセンター

本道キャンパス

- 1) 開館時間
 平日9:00~21:00
- 2) 食堂(110席)
- 3) 売店
- 4) 研修室(自習室)(60席)
- 5) 談話室(30席)
- 6) 会議室
 (大会議室・小会議室)
- 7) 和室

学生寮



手形寮

	手形寮 (女子)	本道寮 (女子)	北光寮 (工学資源学部男子)
	745m ²	1,121m ²	3,460m ²
居室形態	個室	個室	2人部屋
定員	40人	31人	240人

留学生会館



案内

- 1) 居室
 単身室(27室) 夫婦室(3室)
- 2) 入居対象者
 ・本学に在学する外国人留学生
 及びその配偶者
 ・その他館長が必要と認めた者

国際交流会館



案内

- 1) 居室
 単身室(外国人留学生用10室、外国人研究者用5室)
 夫婦室(外国人研究者用3室)、家族室(外国人研究者用2室)
- 2) 入居対象者
 ・本学に在学する外国人留学生
 ・本学において教育研究に従事する外国人研究者及びその配偶者・子女
 ・その他館長が適当と認めた者

学術交流会館



案内

- 1) 利用目的等
 会議、研修会、宿泊
- 2) 施設
 研修室
 定員 洋室45人 和室12人
 宿泊室
 シングル3室 ツイン2室 和室1室

体育施設等

Sports Facilities

施設	面積(m ²)			備考
	手形地区	本道地区	保戸野地区	
陸上競技場	24,637	} 20,909	—	400m 6コース メイン 8コース
野球場	20,378		—	
サッカー場	陸上競技場と併用	陸上競技場と併用	—	サッカー ラグビー（本道地区はサッカー ラグビー アーチERYー 準硬式野球）
ハンドボール場	(1,200)	—	—	陸上競技場を含む
大体育館	2,591	1,079	3,588	バスケットボール バレーボール バドミントン 柔道 剣道 合気道(本道地区はバレーボール バドミントン バスケットボール 卓球 サロソ・フットボール)
小体育館	650	—	—	体操 卓球 空手道
柔剣道場(武道場)	—	—	373	柔道 剣道
弓道場	149	—	—	的場(44m ²)は含まない。
テニスコート	(5面)3,238	(5面)3,614	—	
プール(25m)	800	—	—	
運動場	—	—	14,923	



野球場



陸上競技場(中央大体育館)



プール

東京サテライト

Tokyo Satellite

企業との産学官連携の推進等、教育・研究、社会貢献活動の周知・発展を図るため、首都圏における情報収集・発信、広報・広聴、連絡調整、交渉等を機動的に行う拠点として、「秋田大学東京サテライト」を設置しています。

業務紹介

大学活動拠点

首都圏の情報収集、首都圏への本学情報発信
入試広報、入試説明会、各学校への情報発信、訪問活動拠点
就職活動、就職斡旋先企業等への情報発信、訪問活動拠点
シンポジウム、説明会等の研究成果発表
公開講座等、生涯学習的な教育活動
大学周知等の各種イベント
同窓会入会、相談



キャンパス・イノベーションセンター外観

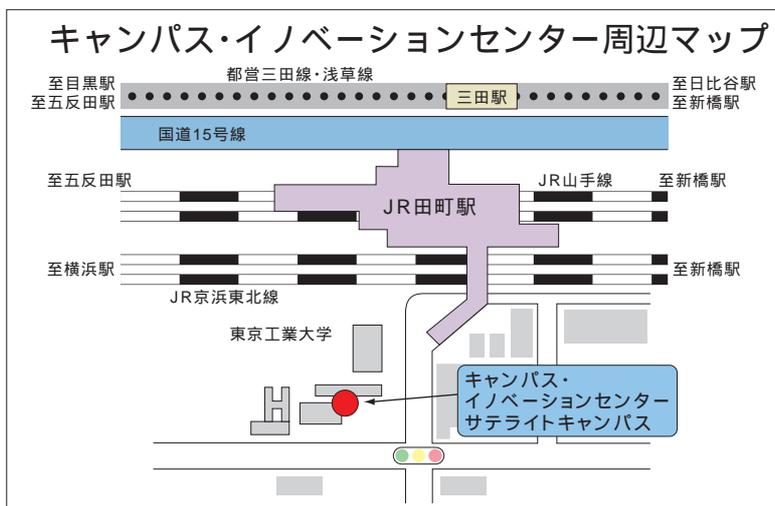
産学官連携

共同研究、受託研究、研究プロジェクト等、産学官連携、関連企業等との連絡調整・技術相談
企業ニーズ等を身近に感じた新規プロジェクトの提案・相談
迅速な初動を重点とした企業等との連絡・相談
知的財産の管理・活用における企業、弁理士等との連絡・相談

所在地：〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
キャンパス・イノベーションセンター6階 604オフィス(20m²)
電話：03-5440-9104(FAX兼用)
<http://www.b-info.jp/tokyosatellite>



東京サテライト604オフィス



共用利用スペース

工学資源学部通信教育講座

Education by Correspondence Course

通信教育講座は、国立大学法人唯一の文部科学省認定社会通信教育です。8コースで構成されており、18歳以上で高卒程度の学力があれば、添削指導などを通して系統立てて勉強することができます。1科目だけの科目履修生にもなれます。なお、受講申込みは随時受け付けています。(<http://www.eng.akita-u.ac.jp/>)

コース・受講生数及び修了生数

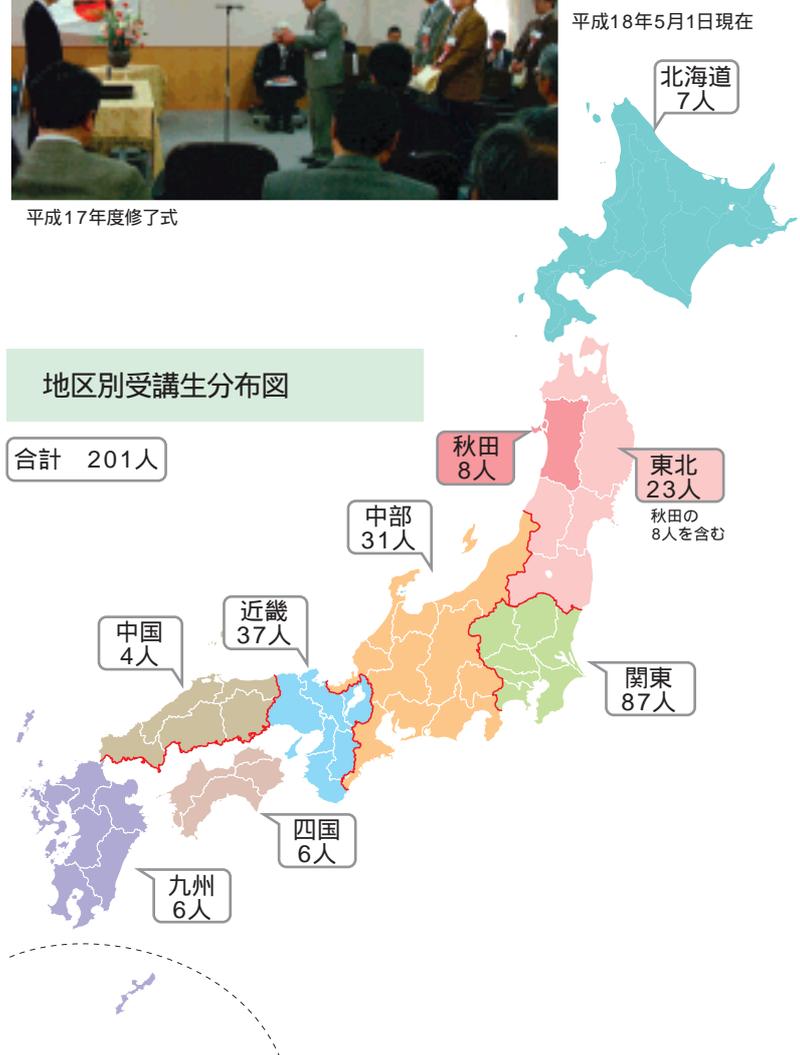
昭和25年4月～平成18年5月現在

課 程	現受講生数	修了生
地 球 科 学 コ ー ス	48	73
資 源 開 発 コ ー ス	21	22
材 料 工 学 基 礎 コ ー ス	21	16
材 料 工 学 専 門 コ ー ス	5	8
電 気 ・ 電 子 基 礎 コ ー ス	64	50
電 気 系 専 門 コ ー ス	3	16
電 子 系 専 門 コ ー ス	10	12
一 般 科 学 技 術 コ ー ス	29	25
採 鉱 ・ 地 質 課 程		457
冶 金 ・ 金 属 材 料 課 程		501
電 気 ・ 電 子 課 程		399
計	201	1,579



平成17年度修了式

平成18年5月1日現在



スクーリングの様子

平成18年度大学開放事業

Open Campus (Academic Year of 2006)

●教育文化学部オープンキャンパス(平成18年10月21日～22日)

大学開放事業の一環として、学生による音楽会・各講座における研究に関する展示、研究発表会の公開、実験や実習の体験、教員研究室の公開などを行います。

多くの方々に、楽しみながら教育文化学部の教育・研究活動に触れていただき、2日間ともに地域の皆さんと交流を深める場にするよう計画しています。

●工学資源学部オープンキャンパス(平成18年10月21日)

大学開放事業の一環として、学科・研究室を広く一般に公開し、最先端の科学技術を体験していただくことを目的としています。



平成17年度オープンキャンパスの様子

●工学資源学部の出前講義

工学資源学部では、高校生、小・中学生や市民の皆様、そして、企業、地方自治体の皆様のためになり、わかりやすくそして面白い講義を用意し、生徒の皆さんには工学の面白いところを、社会の皆様には優しく興味ある話を、「出前講義」として広くご利用いただいております。講義題目一覧はホームページをご覧ください。

(<http://www.eng.akita-u.ac.jp/>)

平成18年度主な課外行事

Main Extracurricular Events (Academic Year of 2006)



今日歩(きょうほ)大会 6/3(土)~4(日)

男鹿半島の寒風山を午後9時に出発して、大学まで約40キロの道のりを走踏破するもので、学生、教職員及び一般市民約500人が参加して行われる大学の名物行事です。



大学祭 10/21(土)~22(日)

各学部間の交流、学生と教職員や一般市民との交流を深めることを目的として、毎年実施し、学内外を問わず親しまれている行事です。



第57回東北地区大学総合体育大会 6/16(金)~7/3(月)

東北地区の国・公・私立の49大学による総合体育大会で、平成18年度は弘前市内が会場となります。



全学駅伝大会 11/4(土)12:00-

学生同士や、学生と教職員との交流を深め、スポーツマン精神を養うことを目的に、男女合わせて約30チームが健脚を競っています。応援を含めて全学が熱狂する行事です。



サークルリーダー合宿研修会 8/7(月)~8(火)

課外活動団体のリーダーを中心に、必要な知識等を受得させるとともに、参加者相互の交流や討論を深めるため、毎年1泊2日の日程で実施しています。



スキー合宿研修会 2/17(土)~2/18(日)

1泊2日の日程で、秋田県営田沢湖スキー場を会場に行っており、初心者から上級者まで、各自の技術に合わせて行われる指導は、確実に上達できると定評があります。

写真はいずれも前年度以前実施分

手形地区施設配置図

Tegata Campus Map

教育文化学部

- ① 1号館(管理棟)
- ② 2号館(音楽棟)
- ③ 3号館
- ④ 4号館
- ⑤ 5号館
- ⑥ 附属教育実践総合センター

工学資源学部

- ⑦ 1号館(管理棟)
- ⑧ 1号館(電気電子工学科・土木環境工学科ほか)
- ⑨ 1号館(電気電子工学科)
- ⑩ 2号館(地球資源学科)
- ⑪ 2号館(機械工学科)
- ⑫ 3号館(材料工学科)
- ⑬ 4号館(環境物質工学科)
- ⑭ 5号館(情報工学科)
- ⑮ 附属環境資源学術研究センター
- ⑯ 附属ものづくり創造工学センター
- ⑰ 附属鉱業博物館
- ⑱ 附属地域防災力研究センター

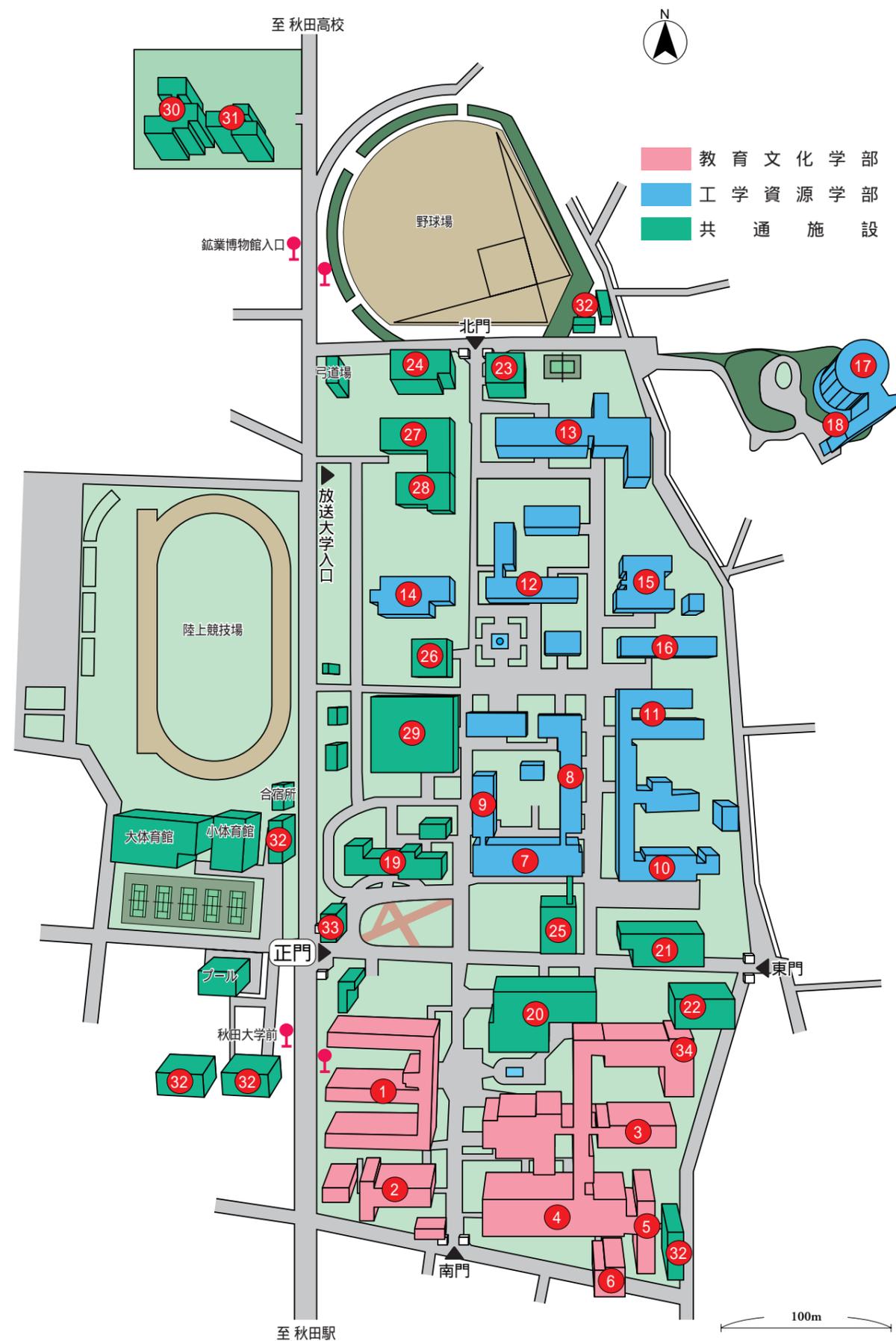
共通施設

- ⑲ 本部管理棟(事務局),学生支援総合センター,社会貢献推進機構,国際交流推進機構
- ⑳ 附属図書館
- ㉑ 一般教育1号館,教育推進総合センター
- ㉒ 一般教育2号館
- ㉓ 放射性同位元素センター
- ㉔ 地域共同研究センター,知的財産本部
- ㉕ 総合情報処理センター
- ㉖ 保健管理センター
- ㉗ ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー,放送大学秋田学習センター
- ㉘ 総合研究棟
- ㉙ 大学会館(クレール)
- ㉚ 国際交流会館
- ㉛ 女子学生寮(手形寮)
- ㉜ サークル棟
- ㉝ 総合案内所
- ㉞ 評価センター



手形地区

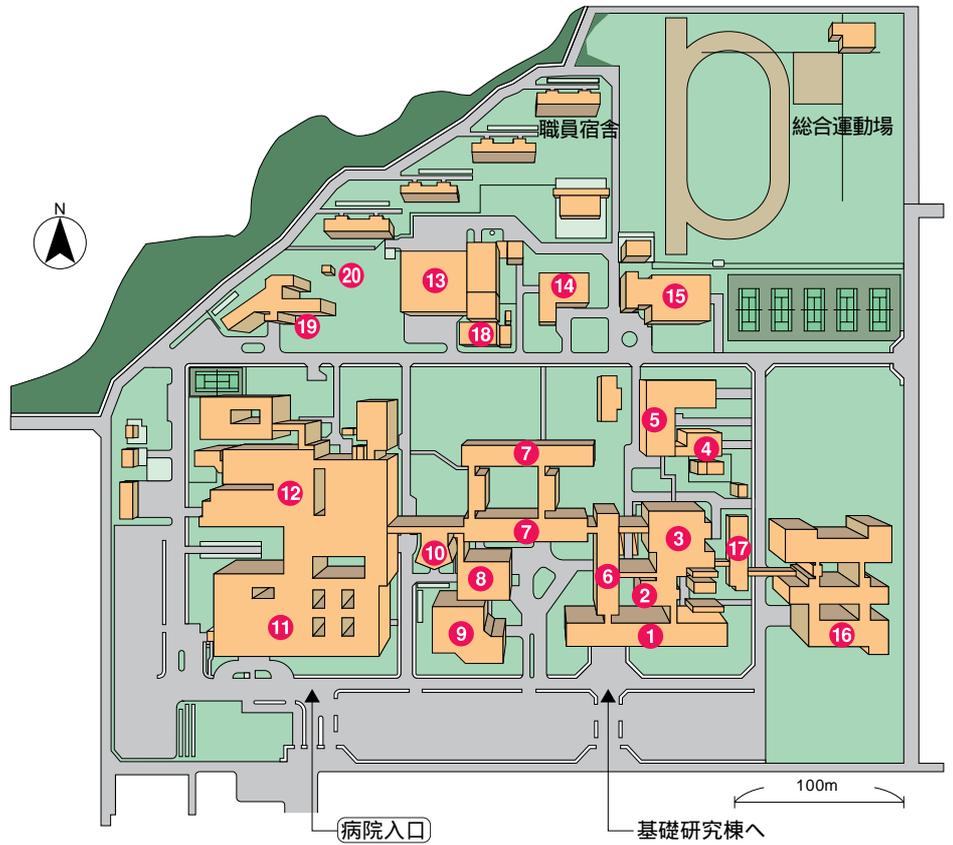
至秋田駅



本道地区施設配置図

Hondo Campus Map

- 1 基礎医学研究棟
- 2 基礎講義棟
- 3 学生実習棟
- 4 バイオサイエンス教育・研究センター
放射性同位元素部門
- 5 バイオサイエンス教育・研究センター
動物実験部門
- 6 バイオサイエンス教育・研究センター
分子医学部門
- 7 臨床医学研究棟
- 8 管理棟
- 9 附属図書館医学部分館
- 10 臨床講義棟
- 11 附属病院外来棟
- 12 附属病院病棟
- 13 エネルギーセンター
- 14 福利厚生施設(本道会館)



- 15 体育館
- 16 保健学科棟
- 17 医学系研究棟
- 18 環境安全センター
- 19 看護師宿舎 / 女子学生寮
- 20 納骨堂

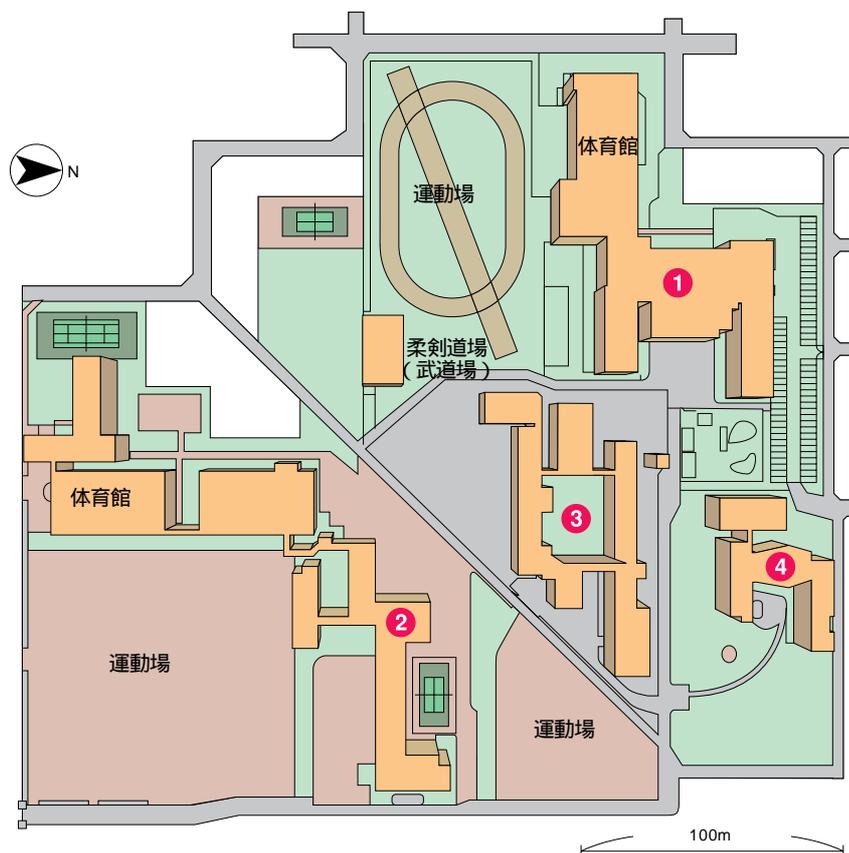


本道地区

保戸野地区施設配置図

Hodono Campus Map

- ① 附属小学校
- ② 附属中学校
- ③ 附属養護学校
- ④ 附属幼稚園



保戸野地区

位置図及び所在地

Location Map and Addresses



名称	郵便番号	所在地	電話番号	名称	郵便番号	所在地	電話番号
事務局		総合案内	(018)889-2207 (総務課総務係)	放射性同位元素部門			(018)884-6196
附属図書館			(018)889-2273	分子医学部門	010-8543	秋田市本道一丁目1の1	(018)884-6191
保健管理センター			(018)889-2286	環境安全センター			(018)884-6192
地域共同研究センター			(018)889-2712	附属図書館医学部分館			(018)833-1166
総合情報処理センター			(018)889-2499	本道寮(女子)	010-0825	秋田市柳田字糠塚100-3	—
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー			(018)889-3040	附属鉱業博物館	010-8502	秋田市手形字大沢28番地の2号	(018)889-2461
放射性同位元素センター			—	附属小学校	010-0904	秋田市保戸野原の町13番1号	(018)862-2593
知的財産本部	010-8502	秋田市手形学園町1番1号	(018)889-3020	附属中学校	010-0904	秋田市保戸野原の町7番75号	(018)862-3350
社会貢献推進機構			(018)889-2270	附属養護学校	010-0904	秋田市保戸野原の町14番32号	(018)862-8583
国際交流推進機構			(018)889-2258	附属幼稚園	010-0904	秋田市保戸野原の町14番32号	(018)862-2343
教育推進総合センター			(018)889-3193	手形寮(女子)	010-0862	秋田市手形田中5番50号	(018)833-3319
学生支援総合センター			(018)889-2265	国際交流会館	010-0862	秋田市手形田中5番50号	—
教育文化学部			(018)889-2504 (総務係)	北光寮	010-0851	秋田市手形西谷地5番地	(018)833-2856
附属教育実践総合センター			(018)889-2700	留学生会館	010-0041	秋田市広面字高田4番	(018)831-2170
工学資源学部			(018)889-2305 (総務係)	学术交流会館	010-0873	秋田市千秋城下町3番28号	(018)835-9383
附属環境資源学術センター			(018)889-2460	戸賀臨海実習所	010-0673	男鹿市戸賀塩浜字平床39の2	(0185)37-2024
附属ものづくり創造工学センター			(018)889-2806	乳頭口ツジ	014-1201	仙北郡田沢町生保内字駒ヶ丘2-228	(0187)46-2110
医学部		総合案内	(018)833-1166	放送大学秋田学習センター	010-8502	秋田市手形学園町1番1号	(018)831-1997
附属病院	010-8543	秋田市本道一丁目1の1	(018)834-1111				
バイオサイエンス教育・研究センター							
動物実験部門			(018)884-6193				

バス案内 (秋田駅前から)

平成18年4月現在

行先	路線	乗場	下車	所要時間(バス)
手形地区	手形山経由大学病院線	西口4番	秋田大学前	(10分)
本道地区	手形山経由大学病院線	西口4番	大学病院前	(20分)
	大学病院経由下北手線	西口13番		
	大学病院経由赤沼線			
	大学病院経由太平線			
	大学病院経由松崎地線			
保戸野地区	駅東線	東口1番	原の町	(15分)
	赤沼線	東口2番		
	神田旭野線	西口3番		
	神田土崎線			
	添川線			



秋田新幹線「こまち号」

リムジンバス

秋田空港から秋田駅までの所要時間

秋田駅西口発1番のりば ← 秋田空港: 40分

秋田駅東口発4番のりば ← 高速道経由 秋田空港: 25分
「毎日午前・午後の1便運行」

詳細は、次のアドレスをご覧ください。
<http://www.akita-chuokotsu.co.jp/>

入学志願者・入学状況

学部

平成18年度

学部	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
教育文化学部	290	523	932	1,455	102	208	310	5.02
医学部	201	565	503	1,068	87	115	202	5.31
工学資源学部	460	1,211	145	1,356	425	54	479	2.95

注：外国人留学生及び編入学生を除く。

大学院

平成18年度

研究科	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
教育学研究科(修士課程)	41	20	41	61	12	21	33	1.49
医学研究科(博士課程)	56	27	4	31	26	4	30	0.55
工学資源学研究科(博士前期課程)	132	145	14	159	126	12	138	1.20
工学資源学研究科(博士後期課程)	16	13	0	13	13	0	13	0.81

注：外国人留学生を除く。

専攻科

平成18年度

専攻科	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
特殊教育特別専攻科	30	2	7	9	0	4	4	0.3

学生の定員・現員

学部

平成18年5月1日現在

学 部	学 科 ・ 課 程	入学定員	収容定員	現 員						
				1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
教育文化学部	学 校 教 育 課 程	100	400	105	112	117	123			457
	地 域 科 学 課 程	65	260	68	69	69	81			287
	国 際 言 語 文 化 課 程	65	260	71	70	78	96			315
	人 間 環 境 課 程	60	240	66	64	61	65			256
	小 計	290	1,160	310	315	325	365			1,315
医 学 部	医 学 科	(5)95	590	95	102	101	106	103	102	609
	保 健 学 科	(14)106	452	108	114	116	107			445
	小 計	(19)201	1,042	203	216	217	213			103
工 学 資 源 学 部	地 球 資 源 学 科	60	240	68	62	61	56			247
	環 境 物 質 工 学 科	75	300	80	86	88	72			326
	材 料 工 学 科	60	240	66	74	70	57			267
	情 報 工 学 科	50	200	60	52	69	48			229
	機 械 工 学 科	(10)80	340	91	99	116	86			392
	電 気 電 子 工 学 科	(10)80	340	100	82	117	92			391
	土 木 環 境 工 学 科	55	220	57	66	61	58			242
	各 学 科 共 通	(10)	20							
小 計	(30)460	1,900	522	521	582	469	2,094			
合 計		(49)951	4,102	1,035	1,052	1,124	1,047	103	102	4,463

注：()内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。収容定員は3年次編入学定員を含んだ数である。

大学院

平成18年5月1日現在

研究科	専攻	入学定員	収容定員	現 員				計	
				1 年	2 年	3 年	4 年		
教 育 学 科 教 育 学 科	学 校 教 育 専 攻	10	20	14	16	/		30	
	教 科 教 育 専 攻	31	62	19	21			40	
	小 計	41	82	33	37			70	
医 学 学 科 医 学 学 科	構 造 機 能 系 専 攻	10	40	0	2	1	2	5	
	病 理 病 態 系 専 攻	6	24	0	0	3	5	8	
	社 会 医 学 系 専 攻	6	24	1	2	5	5	13	
	内 科 系 専 攻	15	60	14	16	9	20	59	
	外 科 系 専 攻	19	76	17	10	12	24	63	
	小 計	56	224	32	30	30	56	148	
	医 学 第 一 系 専 攻			/				0	0
	医 学 第 二 系 専 攻							0	0
	医 学 第 三 系 専 攻							2	2
	小 計							2	2

研究科	専攻	入学定員	収容定員	博士前期課程		博士後期課程			計				
				1 年	2 年	1 年	2 年	3 年					
工 学 資 源 学 科 工 学 資 源 学 科	地 球 資 源 学 専 攻	18	36	18	15	/			33				
	環 境 物 質 工 学 専 攻	24	48	22	27				49				
	材 料 工 学 専 攻	18	36	20	10				30				
	情 報 工 学 専 攻	16	32	17	14				31				
	機 械 工 学 専 攻	22	44	29	23				52				
	電 気 電 子 工 学 専 攻	22	44	28	28				56				
	土 木 環 境 工 学 専 攻	12	24	13	12				25				
	資 源 学 専 攻	4	12	/					4	0	1	5	
	機 能 物 質 工 学 専 攻	4	12						7	2	5	14	
	生 産 ・ 建 設 工 学 専 攻	4	12						4	2	3	9	
	電 気 電 子 情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻	4	12						2	3	4	9	
	小 計	148	312				147	129	17	7	13	313	

研究科	専攻	入学定員	収容定員	博士前期課程		博士後期課程			計
				1年	2年	1年	2年	3年	
鉦山学科 平成14年度から 学生募集停止	資源・素材工学専攻			—	—				—
	物質工学専攻			—	—				—
	情報工学専攻			—	—				—
	機械工学専攻			—	—				—
	電気電子工学専攻			—	—				—
	土木環境工学専攻			—	—				—
	地球工学専攻					—	—	1	1
	機能物質工学専攻					—	—	1	1
	システム工学専攻					—	—	0	0
	小計			—	—	—	—	2	2
合				計					535

専攻科

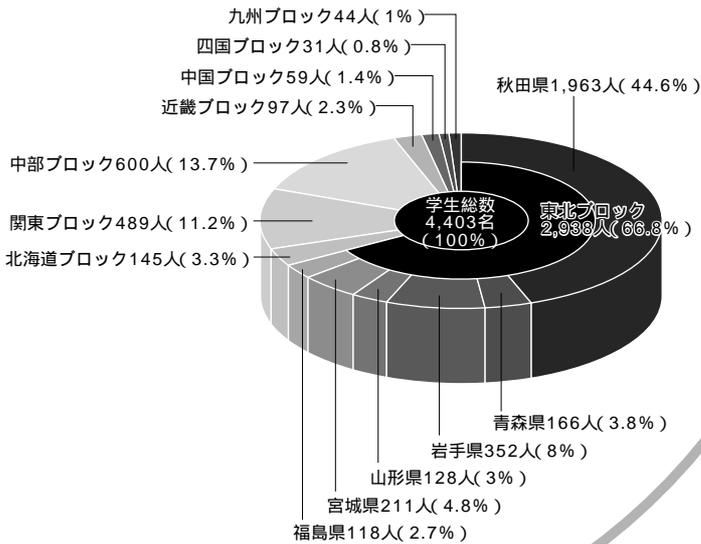
平成18年5月1日現在

専攻科	専攻	入学定員	現員
特殊教育特別専攻科	知的障害教育専攻	30	4

出身高校所在地別在学生分布図

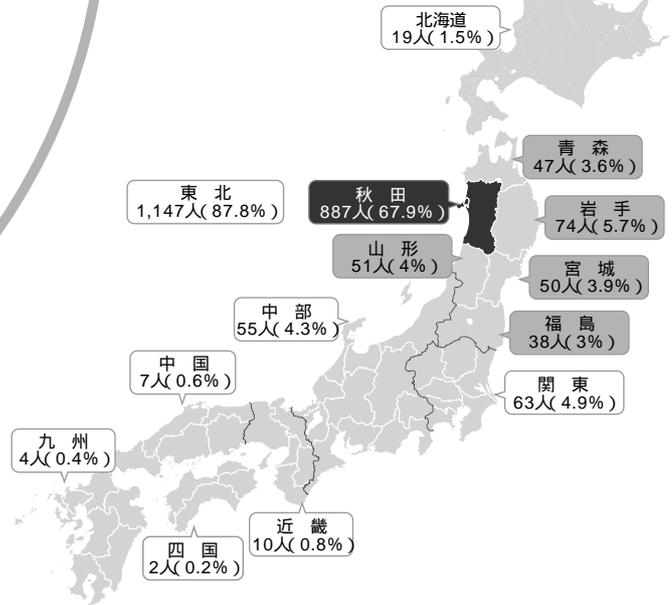
平成18年5月1日現在

学生総数(学部学生)

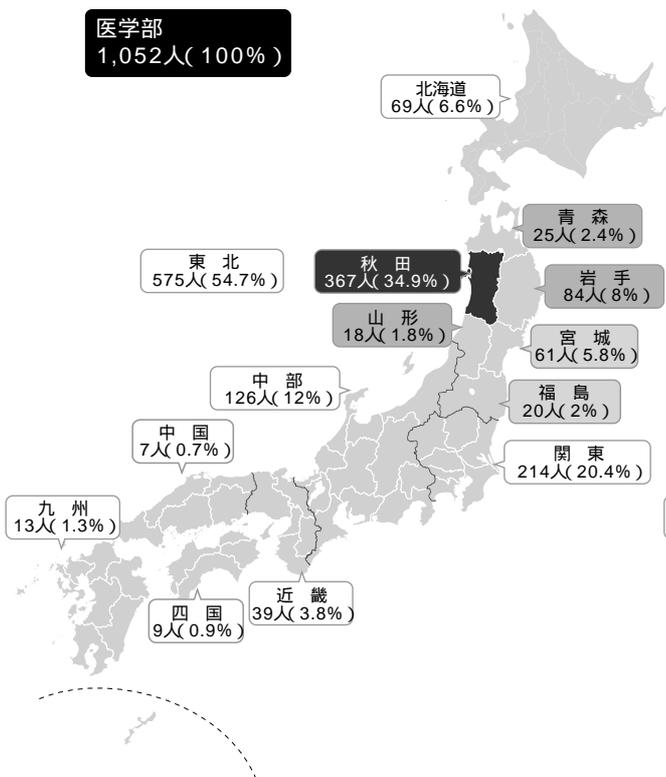


注:学生総数は 国内の高校出身者の合計である。

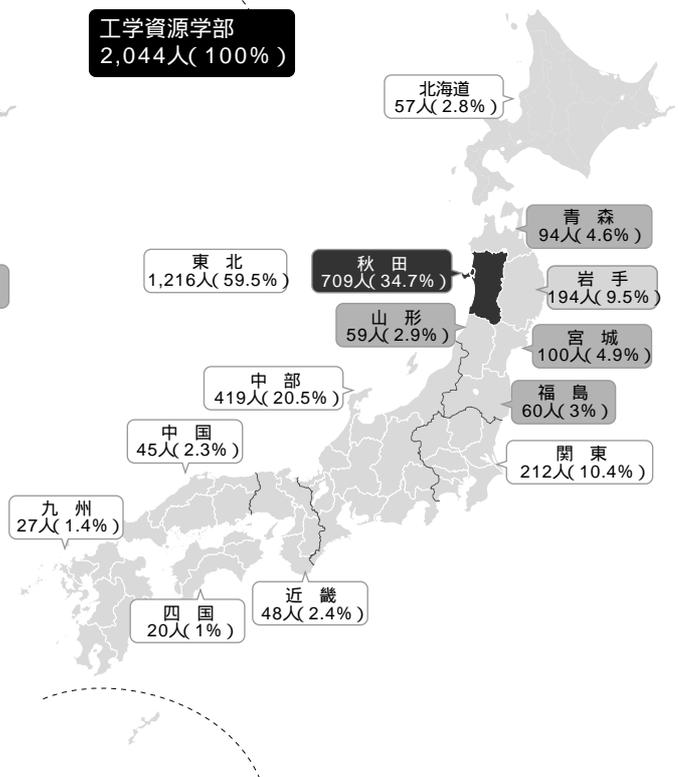
教育文化学部 1,307人(100%)



医学部 1,052人(100%)



工学資源学部 2,044人(100%)



卒業者数・修了者数

学部,大学院,専攻科

学 部			大 学 院			専 攻 科		
区 分	17 年度	累 計	区 分	17 年度	累 計	区 分	17 年度	累 計
教育文化 学 部	281	1,424	教 育 学 研 究 科	32	561	教育専攻科		78
教育学部		14,519				特殊教育特別専攻科	5	204
医 学 部	108	2,922	医学研究科	30	658	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; margin-right: 10px;">鉦山</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; margin-right: 10px;">専攻</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em;">学科</div> </div>		
工学資源 学 部	462	2,216	工学資源学研究科 (博士前期課程)	138	402			
			工学資源学研究科 (博士後期課程)	8	17			
鉦山学部		14,522	鉦山学研究科 (修士課程)		1,270			
			鉦山学研究科 (博士前期課程)		1,012			
			鉦山学研究科 (博士後期課程)	0	123			
計	851	35,603	計	208	4,043	計	5	340

注：鉦山学専攻科……………昭和40年3月廃止
 教育専攻科……………平成元年3月廃止
 鉦山学研究科(修士課程)……………平成9年3月廃止
 教育学部……………平成10年4月教育文化学部へ改組・改称
 鉦山学部……………平成10年4月工学資源学部へ改組・改称
 鉦山学研究科……………平成14年4月工学資源学研究科へ改組・改称

学位授与数 / 日本学生支援機構奨学生

学位授与数

平成18年5月1日現在

区	分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	累計
教育学研究科	修士(教育学)	46	52	41	35	32	561
医学研究科	博士(医学Ⅱ課程)	24	26	36	37	30	658
	博士(医学Ⅱ論文)	9	13	17	9	11	567
	小計	33	39	53	46	41	1,225
工学資源学研究科	修士(工学)	0	0	121	140	136	397
	修士(資源学)	0	0	2	1	2	5
	博士(工学Ⅱ課程)	0	0	0	9	7	16
	博士(資源学Ⅱ課程)	0	0	0	0	1	1
	博士(工学Ⅱ論文)	0	0	0	0	2	2
	小計	0	0	123	150	148	421
鉱山学研究科	修士(工学)	132	115	1	1	0	2,252
	修士(資源学)	1	3	0	0	0	30
	博士(工学Ⅱ課程)	11	15	17	4	0	117
	博士(資源学Ⅱ課程)	1	1	0	0	0	6
	博士(工学Ⅱ論文)	5	2	4	7	0	31
	小計	150	136	22	12	0	2,436
合計		229	227	239	243	221	4,643

日本学生支援機構奨学生

平成18年6月1日現在

区	分	第一種	第二種	計	学生数	对学生比(%)
学部	教育文化学部	211	300	511	1,315	38.9
	医学部	145	238	383	1,054	36.3
	工学資源学部	286	460	746	2,094	35.6
	小計	642	998	1,640	4,463	36.7
大学院	修士・博士前期課程	87	67	154	276	55.8
	博士・博士後期課程	9	—	9	189	4.8
	小計	96	67	163	465	35.1
専攻科	—	—	—	4	0	
合計		738	1,065	1,803	4,928	36.6

平成17年度学生表彰受賞者

学術研究活動関係(学術研究活動において顕著な業績を挙げた学生)

	所属氏名	業績内容
奨励賞	工学資源学研究科 博士後期課程3年 白澤 洋一	社団法人情報処理学会全国大会において「ズームと顔の向き変化に口バスタな口唇の位置推定に関する検討」が大会奨励賞に選定され、平成18年3月8日に開催された第68回全国大会で表彰された。
	工学資源学研究科 博士前期課程1年 高田 信	社団法人日本分析化学会第54年會において「霧のイオン濃度に及ぼす風向・風速の影響」のポスター発表が年會優秀ポスター賞を受賞した。
	工学資源学部 機械工学科4年 永坂 裕	第1回キャンパスベンチャーグランプリ東北において「マイクロバブルを利用したコンタクトの洗浄装置」を提案し、薬品を使わずに水と空気のみで洗浄を行うというアイデアが評価され、特別賞(日刊工業新聞社賞)を受賞した。

課外活動関係(課外活動において顕著な成績を挙げた学生)

	所属氏名	業績内容
奨励賞 個人	教育文化学部2年 児玉 千明	陸上競技女子円盤投・個人優勝 第56回東北地区大学総合体育大会 第34回東北学生陸上競技選手権大会 第27回北日本学生陸上競技対校選手権大会
	教育文化学部3年 石井 直人	柔道100kg超級・個人優勝 平成17年度東北学生柔道体重別選手権大会
	教育文化学部1年 宮島 淳	柔道90kg級・個人優勝 平成17年度東北学生柔道体重別選手権大会
	教育文化学部3年 飯田 哲也	柔道60kg級・個人優勝 平成17年度東北学生柔道体重別選手権大会
奨励賞 団体	柔道部	団体3位 第47回全国国立大学柔道優勝大会
	弓道部(女子)	団体優勝 第45回東北学生弓道大会
	女子ハンドボール部	団体優勝 第56回東北地区大学総合体育大会

社会活動関係(社会活動において顕著な業績を挙げた学生)

	所属氏名	業績内容
奨励賞	工学資源学部 附属ものづくり創造工学センター 学生宇宙プロジェクトチーム 中井 大助(工学資源学部2年) 他29名	NPO法人大学宇宙工学コンソーシアム(UNISEC)主催の「能代宇宙イベント第3回Come Backコンペティション」において審査員特別賞を受賞した。 同じく、UNISECワークショップにおいて準優勝。 (UNISEC : University Space Engineering Consortium)
	北光寮 (工学資源学部男子寮)	歴史のある北光寮は、寮生の自発的な活動により運営されている部分が多く、地域への貢献や普段の寮生活にもそれが反映されている。新聞紙上で紹介された善行も、平日頃寮生全員が心がけていることで、近隣住民へのボランティア精神に裏付けられたものである。

外国人留学生数

平成18年5月1日現在

区 分 国 別	学 部 学 生						小 計	大 学 院 学 生						合 計					
	教育文化 学 部		医 学 部		工学資源 学 部			小 計	教 育 学 研 究 科		医 学 学 研 究 科		工学資源 学 研 究 科		研 究 生 等				
	国費 1	私費 2	1	2	1	2			1	2	1	2	1			2	1	2	
中 国		5				24			1	2	5		7	2	13		1	45	
マレーシア				2		20							1		1			23	
韓 国		1						1	1					1		1	16	19	
台 湾											1		1		2			2	
モ ン ゴ ル						2												2	
ミャンマー													1		1			1	
ベトナム									1						1			1	
パキスタン													1		1			1	
イ ラ ン						1												1	
セルビア・モンテネグロ																1		1	
ア メ リ カ																	1	1	
ペ ル ー						1												1	
ガ ー ナ													1		1			1	
南アフリカ													1		1			1	
計		6		2		48			1	2	2	6	3	10	6	18	2	18	100

注1 : 1は国費を表す。

注2 : 2は私費を表す。

注3 : 「国費」とは日本政府(文部科学省)奨学生を示す。

国際交流協定校・外国人研究員・非常勤研究員・外国人客員研究員

国際交流協定校

1. 大学間協定 (7カ国等16大学)

国・地域名	大学名	締結年月日
中国	黒龍江大学	昭和63年10月19日
	吉林大 学	平成元年10月4日
	中国医科 大学	平成元年10月6日
	中南大 学	平成16年8月24日
	遼寧工 程技術大 学	平成17年4月20日
	大連民 族学院	平成17年6月27日
	蘭州大 学	平成17年8月1日
	新疆医 科大学	平成18年2月20日
オーストラリア	グリフィス大学	平成6年6月29日
ペラルーシ	ペラルーシ医科大学	平成8年1月22日
アメリカ	セント・クラウド州立大学	平成8年7月24日
韓国	ハンバット大学	平成13年6月8日
	三陟大 学	平成17年11月24日
ニュージーランド	オークランド工科大学	平成16年3月17日
台湾	龍華科 技大学	平成17年7月15日
	国立台 北科技大 学	平成17年7月18日

2. 部局間協定 (7カ国12学部等)

部局名	国・地域名	大学・学部等名	締結年月日
医学部	中国	中国衛生部北京医院	平成7年11月14日
		華中科技大学同済医学院	平成17年6月1日
工学資源学部	アメリカ	モンタナ鉱物理工科大学	昭和57年6月24日
		ミズーリ大学ローラ校	平成12年12月18日
	中国	東北大学理学院	平成16年3月17日
		チェンマイ大学工学部	平成11年7月12日
	タイ	チェンマイ大学理学部	平成11年7月12日
		ザンビア大学鉱山学部	平成15年1月20日
	ザンビア	ザンビア大学工学部	平成15年3月12日
		スファックス大学工学部	平成15年12月18日
	ドイツ	フライベルグ大学	平成18年2月22日
		韓国	国立忠南大学先端磁性材料研究所

大学間協定 ▲部局間協定



外国人研究員

平成17年度受入実績

部局名	国・地域名	人数
工学資源学部	中国	1
	タイ	1
パンチャー・ビジネス・ラボラトリー	中国	1
	台湾	1
	ニュージーランド	1

非常勤研究員

平成17年度受入実績

部局名	国名	人数
工学資源学部	インド	1
パンチャー・ビジネス・ラボラトリー	中国	4
	韓国	1
	インドネシア	1
	ハンガリー	1
	チュニジア	1

外国人客員研究員

平成17年度受入実績

部局名	国名	人数
教育文化学部	中国	1
医学部	中国	7
	バングラディッシュ	1
	ペラルーシ	3
	ドイツ	1
	ロシア	1
工学資源学部	中国	2
	韓国	2
	エジプト	1
	デンマーク	1
	チェコ	1
	ルーマニア	1

平成18年度公開講座

	講座名	回数(時間)	開催時期	講義 時間帯	募集 人員	受講料
1	日本の古代音楽 -日本音楽のあけぼの-	6回(9時間)	5/17(水) ~6/21(水)	18:30 ~20:00	50	6,200
2	よりよい健康のために -見つめてみませんか? あなたと家族の生活習慣を-	4回(10時間)	9/23(土) ~10/14(土)	13:30 ~16:20	30	6,200
3	ドラマ映画にみる イスラエルとパレスチナとの問題	5回(10時間)	10/19(木) ~11/16(木)	18:30 ~20:30	30	6,200
4	「異常」気象はなぜ起こる? -金星の雲,火星の氷,地球の海の謎-	4回(6時間)	11/28(火) ~12/19(火)	18:30 ~20:00	30	6,200
5	自殺予防への積極的アプローチ	4回(5時間)	1/18(木) ~2/8(木)	1・2回目 18:30~19:30 3・4回目 18:30~20:00	30	5,200

役員数

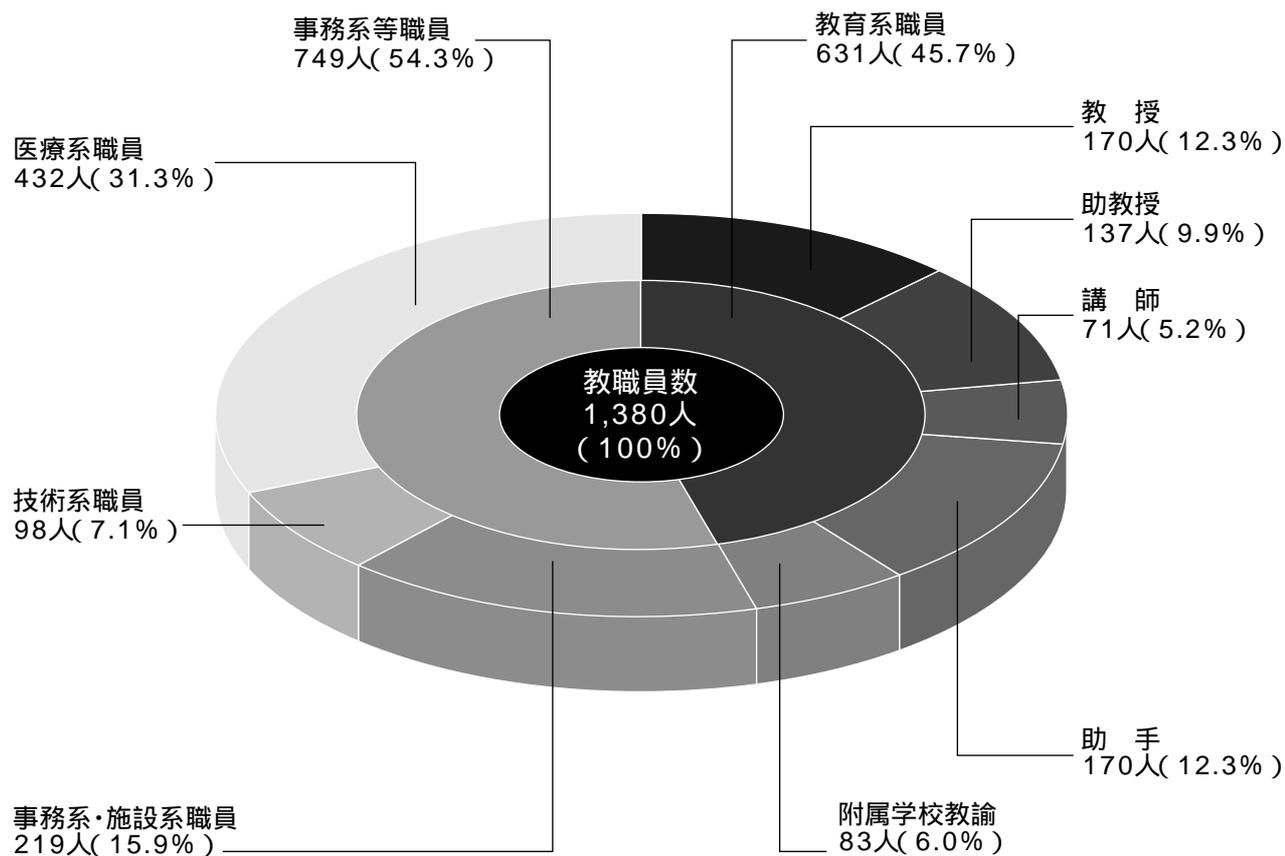
平成18年5月1日現在

区分	学 長	理 事	監 事	計
学 長	1			1
理 事		5(1)		5(1)
監 事			2(1)	2(1)
計	1	5(1)	2(1)	8(2)

()内は非常勤で内数

教職員数

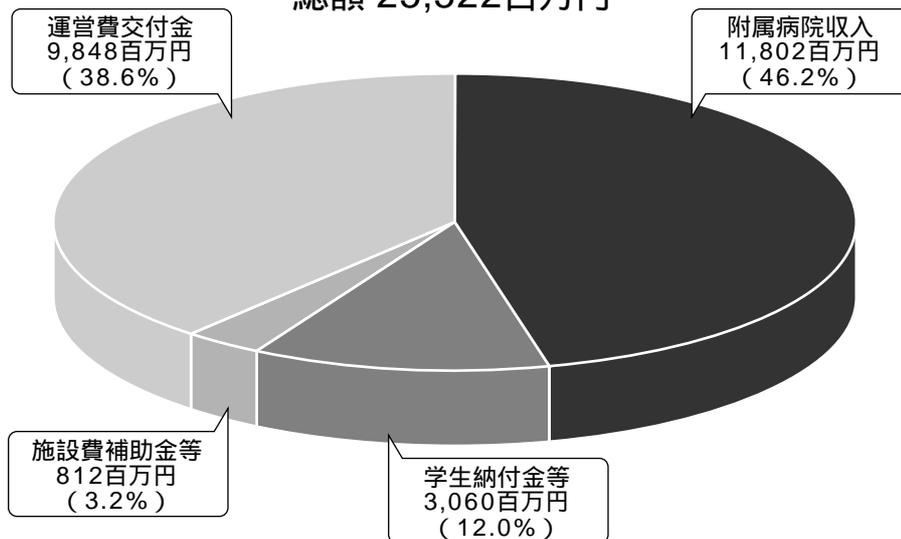
平成18年5月1日現在



平成18年度予算

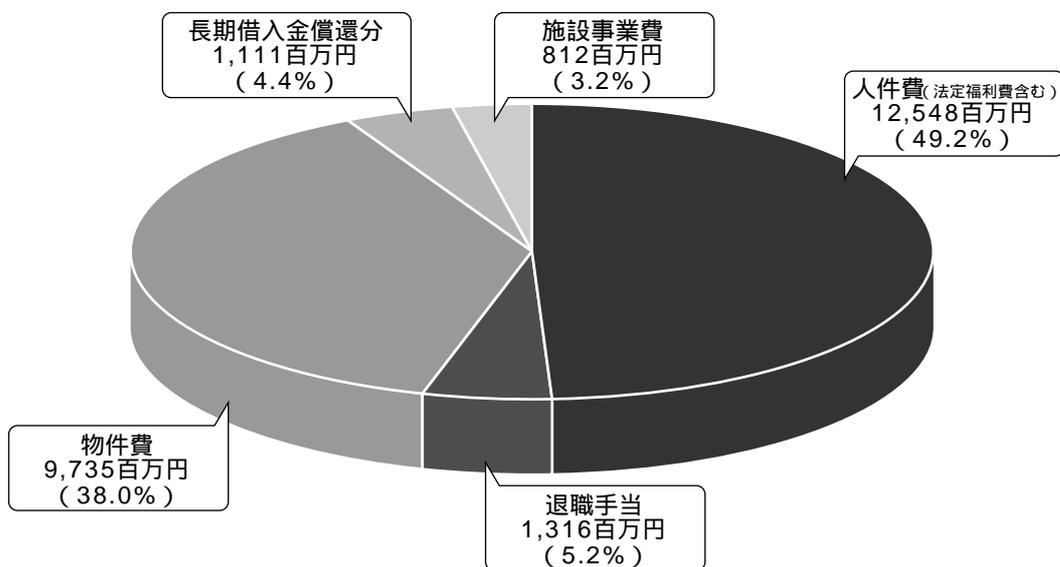
収入

総額 25,522百万円



支出

総額 25,522百万円



金額は平成18年度予算額であり、上記収入及び支出には産学連携等研究費及び寄附金に係る経費は含まない。

外部資金受入状況

単位:千円 継続分を含む

名 称	平成15年度		平成16年度		平成17年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
民間等との共同研究	53	63,909	40	53,607	50	50,262
受 託 研 究	43	100,249	55	107,000	63	117,758
奨 学 寄 附 金	822	530,234	909	510,022	805	435,566
合 計	918	694,392	1,004	670,629	918	603,586

注 : 受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金を含まない。

平成18年度科学研究費補助金採択状況

単位:千円 平成18年4月内定時点

研 究 種 目	採 択 件 数	金 額
特定領域研究	7	43,600
基 盤 研 究 (A)	1	6,800
基 盤 研 究 (B)	20	134,000
基 盤 研 究 (C)	70	113,700
萌 芽 研 究	23	32,900
若 手 研 究 (A)	1	8,800
若 手 研 究 (B)	54	77,700
計	176	417,500

刊行物等一覧

刊行物等名

発行回数

発行時期

事務局・学部等

総務部	秋田大学概要	年1回	6月
	秋田大学広報誌「Aprire(アプリーレ)」	年4回	6・9・12・3月
	秋田大学だより	年6回	偶数月
学務部	秋田大学入学案内	年1回	6月
	キャンパスライフ	年1回	4月
	秋田大学学園だより	年3回	4月・9月・1月
	秋田大学教養基礎教育研究年報	年1回	3月予定
	教育推進総合センターフォーラム	年2回	9月・12月予定
社会貢献・国際交流室	英文大学案内「Welcome to Akita University」	不定期	
	留学案内(英語版)「Guide to International Students」	年1回	7月
	留学案内(中国語版)「留学指南」	年1回	7月
	留学案内(韓国語版)「유학안내」	年1回	7月
	あきた留学生交流	年1回	3月
教育文化学部	秋田大学教育文化学部概要	年1回	4月
	秋田大学教育文化学部研究紀要(教育科学,自然科学,人文科学・社会科学)	年1回	3月
附属教育実践総合センター	教育実践研究紀要	年1回	3月
	臨床心理相談研究	年1回	3月
医学部	秋田大学医学部・附属病院概要	年1回	6月
	秋大病院ネットワーク	年2回	10月・3月
	秋田大学医学部保健学科案内	年1回	7月
	秋田大学医学部保健学科紀要	年2回	11月・3月予定
工学資源学部	工学資源学部・大学院工学資源学研究科概要	年1回	6月
	秋田大学工学資源学部研究報告	年1回	10月
	学部案内ERA「Engineering Resource Science Akita University」	年1回	4月
	TEXNE(通信教育講座機関誌)	年1回	3月
附属鉱業博物館	鉱業博物館	年1回	3月
附属図書館	図書館だより	年2回	4月・10月
	利用者案内	年1回	4月

学内共同教育研究施設・センター等

地域共同研究センター	秋田大学地域共同研究センター概要	年1回	6月
	センターニュース	年2回	4月・11月
	研究成果報告書	年1回	3月
総合情報処理センター	秋田大学総合情報処理センター広報	年2回	10月・3月
環境安全センター	秋田大学環境安全センター報	年1回	未定
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	VBL年報	年1回	5月
評価センター	評価センター年報	年1回	3月
保健管理センター	保健管理概要	年1回	12月

土地・建物

(m²)

区		分	建物(延面積)	土地	
手 形 地 区	本部		8,020	196,697	
	教育文化学部	学部	21,456		
		附属教育実践総合センター			539
	工学資源学部	学部	30,104		
		附属鉱業博物館			3,835
		附属環境資源学研究センター			2,975
	附属図書館		4,129		
	保健管理センター		428		
	地域共同研究センター		1,131		
	総合研究棟		4,266		
	総合情報処理センター		957		
	放射性同位元素センター		338		
	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー		2,878		
	大学会館		3,040		
	体育関係施設		3,827		
	課外活動施設		829		
職員宿舎(山崎町,住吉町)		157			
小計		88,908			
本 道 地 区	医学部		36,391	165,552	
	医学部附属病院		42,644		
	附属図書館医学部分館		1,717		
	体育関係施設		1,079		
	バイオサイエンス教育・研究センター		6,550		
	課外活動施設		207		
	看護師宿舎・女子学生寮		2,997		
	職員宿舎(糠塚)		5,197		
小計		96,783			
保 戸 野 地 区	教育文化学部附属小学校		7,680	68,807	
	教育文化学部附属中学校		7,562		
	教育文化学部附属養護学校		3,290		
	教育文化学部附属幼稚園		1,212		
	小計		19,745		
そ の 他	寄宿舎(女子学生寮,北光寮,留学生会館,国際交流会館)		6,069	26,795	
	職員宿舎(休下町,城下町,新栄町,金砂町他)		6,857		
	その他		1,677		
	小計		14,604		
合		計	220,040	457,851	

秋田県のすがた

① 人口

県の人口は約114万人(平成18年4月)で、全国人口の0.9%です。
秋田市の人口は、約33万人で、県人口の約29%です。

② 面積

県土の総面積は11,612km²で、南北181km、東西111kmに及び、13市9町3村、平成18年3月に区画されており、県全体の70.8%を森林が占めています。

③ 気候

秋田県は日本海沿岸特有の気候で、寒暖の差が大きく、最高・最低気温の差は30℃を超えます。暖候期は主に南東の風が吹いて晴れの日が多く、最高気温は8月には30℃以上にまで上昇します。降水量は9月が特に多く、また、梅雨期は日照時間が少ないものの、太平洋側に比べると晴れの日が多くなります。

④ 県のシンボル(花・鳥・木)



花「ふきのとう」

NHKが郷土の花を募集したことがきっかけです。(昭和29年制定)



鳥「やまどり」

キジ科の鳥で、主に県内の内陸部の山地にすみます。(昭和39年制定)

木「秋田杉」

美しい木目と強い材質が特徴で、日本三大美林の一つに数えられています。(昭和41年制定)

秋田大学概要 平成18年度

【編集発行】

秋田大学総務部広報室

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

TEL:018-889-3019 FAX:018-889-2219

<http://www.akita-u.ac.jp/>